

ポーランド ワルシャワ・アウシュヴィッツ・クラクフ訪問報告書

ポーランドと日本の国交樹立 100 周年記念事業 オペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」

ポーランド巡演 観劇鑑賞・レセプション参加 報告書

令和元年 9 月 27 日

報告者 写真・文責 佐野 馨

協議 細木由里子、佐藤京子

1.はじめに

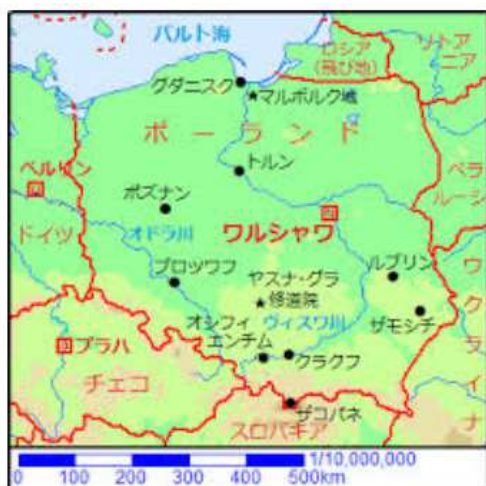
ポーランドと日本の国交樹立 100 周年記念事業として開催される、東京オペラ協会 石多エドワードさん監督のオペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」ポーランド巡演で、小松社長の支援により人間自然科学研究所の 25 年に亘る「対立の文明から共生の文化」を生み出す平和活動が披露されます。

オペラ「忘れられた少年」は、2019 年 9 月 13 日（金）出国～9 月 24 日（火）帰国の計画で、ポーランド 4 都市を巡演される。

- ① 9 月 15 日（日）ニエポカラノフ 聖ボナヴェントゥラホール
- ② 9 月 17 日（火）ワルシャワ 聖ドミニコ会のホール
- ③ 9 月 18 日（水）ワルシャワ 聖十字架教会
- ④ 9 月 18 日（木）クラクフ州知事主催 歓迎レセプション 国立クラクフ歌劇場
9 月 20 日（金）クラクフ 国立クラクフ歌劇場
- ⑤ 9 月 22 日（日）オシフィエンチム 聖マキシミリアン殉教者教区教会

この巡演計画に併せて、小松社長のお計らいにより、③9 月 18 日（水）ワルシャワ 聖十字架教会でのオペラ観劇、④9 月 18 日（木）クラクフ州知事主催 歓迎レセプション 国立クラクフ歌劇場に参加されることになり、光の柱プロジェクトのチラシ披露、ズットナー像の実物平面パネル展示などを計画され、ズットナー像を制作されているロレマ様・マリアンヌ様も現地合流されることになり、韓国 金美正様をガイドとしてお世話いただきました。初めてのヨーロッパ、ポーランド訪問に参加の機会を賜わりまして感謝いたします。ありがとうございます。以下に報告させていただきます。

2.ポーランドの地図



（今回旅程 成田→ワルシャワ→オシフィエンチム→クラクフ→ワルシャワ→成田）

3.ポーランド訪問の日程（2019年9月15日～9月21日）

日付	時間	移動便	概略	ホテル・その他	備考
9/15 (日)	10:00-12:30 20:25-21:55 22:40-24:00	社用車 社用車 ANA390 便 ワゴンタクシー	子ども大学講演会・座談会 昼食・出雲大社へ送迎 小松本社から米子空港へ 羽田空港からへ移動 (浜菜みやこ様と合流) ホテルチェックイン (金美正様と合流)	成田アパホテル	搭乗： 小松社長、 佐野馨、 細木由里子、 佐藤京子、 杉本真知子
9/16 (月)	6:30- 10:15-14:20 18:00-20:00	タクシー 電車 POLAND AIR LO80 便 専用車 (バス2台)	ホテルチェックアウト 成田空港へ移動 登場手続き・出国手続き ポーランドに出発 ワルシャワショパン空港着 通訳合流・ホテルへ移動 ホテルチェックイン (ロレマ様・マリアンヌ様と合流) 会食 お土産品贈呈 ポーランド料理店 Folk Gospoda ※Warszawa ホテル宿泊①	イビス スタイルズ ワルシャワ・シテ ィ・ホテル Ibis styles Warszawa city H0tel U1 Grzyboesska43	飛行時間 11 時間 15 分
9/17 (火)	8:00- 9:30-18:00	専用車 (大型バス)	朝食 ズットナー像展示 終日 ワルシャワ市内観光 彫刻公園 文化科学宮殿 ワルシャワ蜂起記念碑 キュリー夫人博物館 Old town 旧市街地広場 昼食 ウ・フキエラ 老舗レストラン 王宮広場 聖アンナ教会 アダム・ミツキエヴィチ像 大統領官邸 プリストル ホテル ショパン名曲 鑑賞会 ホテルで打ち合せ ※Warszawa ホテル宿泊②	彫刻公園 (Zabytkowy park rzezyby w krolikarni アルカディア公園、 クルリカルニャ宮 殿)	

9/18 (水)	08:00- 09:30-12:00 19:00-	専用車 (大型バス)	朝食後 半日 ワルシャワ市内観光 ワジェンキ公園 ショパン像・水上宮殿 ショパン博物館 昼食 女性陣 ショッピング 聖十字架教会にて石多エドワ ードさん監督のオペラ 「忘れられた少年」を観劇 ※Warszawa ホテル宿泊③	ワルシャワの 歴史経過探索	
9/19 (木)	04:00- 9:00-12:30 14:00- 18:00-	専用車 バス 2台	ホテルチェックアウト オシフィエンチムに向かい 世界遺産アウシュヴィッツ＝ ビルケナウ強制収容所 見学 (第2収容所見学) クラフク州知事主催 レセプション参加 国立クラクフ歌劇場 夕食 ※宿泊：クラクフ	日本語ガイド 手配済み (9:00-12:30) Best Western Premier Krakow Hotel 14A Opolska Street	移動時間 4時間半
9/20 (金)	10:00- 12:15-	タクシー LO3908 便 LO79 便	ホテルチェックアウト後 クラフト空港に向かう ワルシャワ空港に向かう 東京・成田空港へ向かう ※宿泊：機中		
9/21 (土)	08:35 11:00-13:00 14:00-15:25 14:55-16:15 18:00	 JAL283 便 ANN 社用車	成田到着 金美正様と別れ 羽田空港へ移動 稲葉様と子ども大学について 面談会議・昼食 男性・女性解散 羽田→出雲空港 (小松社長・佐野) 羽田→米子空港 (佐藤様、杉本様、細木様) 小松本社に帰社	金様は韓国へ 浜菜さん東京へ	

4. 参加メンバー

No	氏名	役職	
1	小松昭夫	社長 小松電機産業（株）	
2	佐野 馨	人間自然科学研究所 知財管理支援担当	
3	佐藤京子	〃	
4	杉本真知子	〃	
5	細木由里子	〃	
6	浜菜みやこ	小松電機産業（株）マネージャー	
7	金美正	ガイド 元韓国 小松コリヤ	
8	ロレマ様	ズットナー像制作者	
9	マリアンヌ様		

東京オペラ協会 石多エドワードさん監督のオペラ「忘れられた少年」ポーランド4都市巡演

5.概要【ポーランド訪問の行程概要】2019年9月15日（日）～9月21日（土） 6泊7日 9/15(日)

子ども大学講演会・座談会

昼食・出雲大社へ送迎

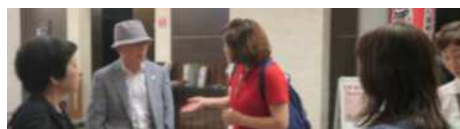
成田へ移動 米子発（ANA390 便）→羽田空港着



搭乗：小松社長、佐野様、細木様、佐藤様、杉本様、羽田空港で浜菜様と合流

成田からワゴンタクシーにて移動

※宿泊：成田アパホテル（金美正様と合流）



台風被害で千葉大停電の修復応援の業者が多数宿泊されておりホテル混雑。

2019.09/16(月) 朝食はキャンセルで成田空港へ移動。

ホテルチェックアウト 成田空港へ移動、登場手続き、海外保険手続き、出国手続き



成田国外にて朝食、金美正様からスケジュール説明



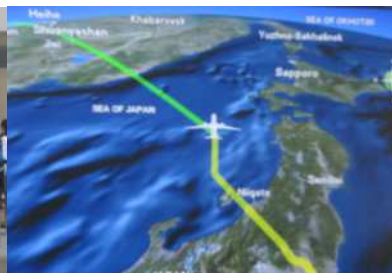
紅茶(給茶入れ自動栓セットが人気でした。)

2019.09/16(月) ポーランドへ移動

10:15（日本時間）成田発→（POLAND AIR LO80 便）→ 14:20（現地時間）ワルシャワショパン空港着
飛行時間 11 時間 15 分

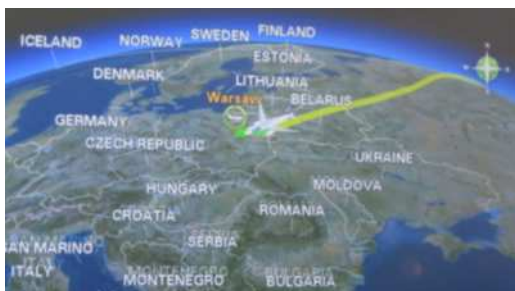


成田出発です



ワルシャワへの飛行ルート(ロシア上空)

ワルシャワショパン空港への着陸前



2019.09/16(月)ワルシャワショパン空港→ホテルへ移動 →ホテルチェックイン

※イビス スタイルズ ワルシャワ・シティ・ホテルにてロレマ様とマリアンヌ様と合流。



ショパンが生まれ育ったポーランドの首都

ワルシャワ

W A R S Z A W A



Map P.209-C2

人口 176万4615人

Warsawtour.pl

@ewarsaw

@Warsaw

@fall_in_love_with_warsaw

世界遺産

ワルシャワ歴史地区
Historic Centre of
Warsaw
1980年登録



夏にはワジェンキ公園でショパンの無料コンサートが行われる

ワルシャワの英語表記 Warsaw



ユネスコ世界遺産になっている
旧市街

共産時代のシンボル、文化科学
宮殿



ショパンが前半生を過ごし、キュリー夫人が生を受けたポーランドの首都、ワルシャワ。もともとヴィスワ川沿いの小さな漁村に過ぎなかったが、14世紀以降商業と工業の発展にともない徐々に重要度を増し、1596年にはジグメント3世によってクラクフに替わりポーランドの首都になった。歴史地区は、旧市街と新市街のふたつに分かれており、旧市街は首都になる前、新市街は首都になって以降のワルシャワの姿を今に伝えている。

近代以降に首都になったワルシャワには、歴代の王が建てた宮殿や庭園が多くあるのも特徴のひとつ。ヤン3世ソビエスキが建てたヴィラヌフ宮殿、アウグスト2世が建てたサスキ公園、スタニスワフ・アウグスト・ポニャトフスキが建てたワジェンキ宮殿などはいずれも17～18世紀に造営された。

美しい歴史地区や宮殿によって彩られたワルシャワの町に悲劇が訪れたのは第2次世界大戦のとき。戦争末期の1944年、ナチス・ドイツに対するワルシャワ蜂起が失敗したことで、報復のため町は徹底的に破壊された。しかし、戦後ワルシャワを愛する市民たちは、「ひびの1本にいたるまで」といわれるほど忠実に町を復元、かつての美しさを取り戻すことに成功。1980年にはユネスコの世界遺産にも登録された。

(参考) ワルシャワ市街地の概略地図

Old town 旧市街地



2019.09/16(月) 夕食会 宿泊ホテル イビス スタイルズ ワルシャワ シティ
 の道路向かいにある「ポーランド料理店 Folk Gospoda」
 (ワルシャワで評判の料理店とのことで、インターネットでもファンの方が多い様子)





ロレマ様・マリアンヌ様 に キルトのお土産 プレゼント



ロレマ様・マリアンヌ様 に 紙粘土品のお土産 プレゼント



金美正様に、キルトのポーチ 贈呈



ロレマ様から 小松社長に イナゴの銅像プレゼント 贈呈文書(日本語訳)を浜菜さん朗読中





浜菜さん朗読中



贈呈文書の浜菜さん朗読が終わり、イナゴのミニチュア銅像 お披露目



ロレマ様が最近『誤った判断の劇』で使われたイナゴ像のミニチュア(シャドウイング法で光加減が異なる)



イナゴのミニチュア銅像が 箱からご登場です。 メッセージと共に 箱入りに・・・



悠久の河 周藤彌兵衛翁物語 書籍の紹介 プレゼント



ロレマ様から金美正様に お孫様へのプレゼント (初孫が誕生されたとのこと)



ロレマ様に 折り紙のお土産 プレゼント



マリアンヌ様 に 折り紙のお土産 プレゼント



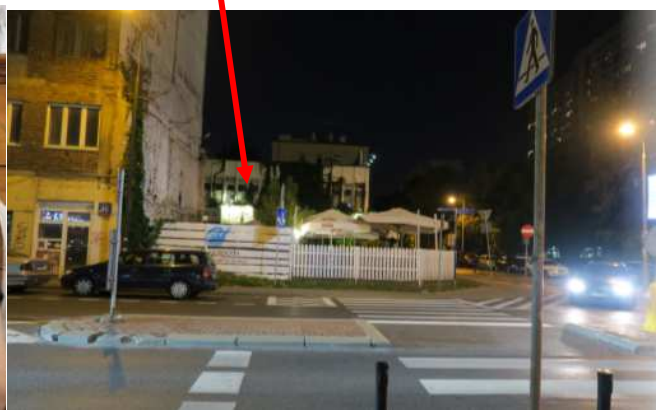
ロレマ様に 扇子のお土産(桜の国 日本を代表する桜花爛漫図柄入り) プレゼント



佐藤様 扇子の使い方を伝授中



宿泊ホテルの道路向かいに「ポーランド料理店 Folk Gosp0da」がある。



※宿泊：イビス スタイルズ ワルシャワ・シティ・ホテル Ibis styles Warszawa city H0tel

2019.09/17(火)

8:00（現地時間）→朝食→ 食堂 7 階



ホテル出発前に ロビーで ズットナー像 を 展示



終日 ワルシャワ市内観光 歴史経過探索

彫刻公園(アルカディア公園)ロレマ様と一緒に公園を散策 Zabytkowy park rzeźby w krolikarni





ワルシャワ蜂起の慰霊碑



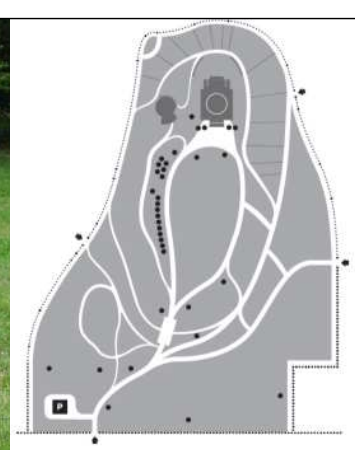
イノシシ石像



ワルシャワ国立博物館分館
クルリカルニヤ宮殿



彫刻公園(アルカディア公園)平面図



2019.09/17(火)

巨大すぎる！スターリンからの贈り物「文化科学宮殿」 37 階建の高層ビル。

スターリンからの贈りものとして 1952 年から 4 年もかけて建てられた塔の高さは 234 m、
室の数は 3288 もある。地上 30 階、高さ 114 m にある回廊が展望台として開放されている。

ワルシャワ中央駅の東側にそびえる、37階建ての高層ビル。スターリンからの贈りものとして1952年から4年もかけて建てられた塔の高さは234m、総床面積12万3000m²、部屋の数3288もある。ワルシャワのシンボルともいえる堂々とした建物だが、共産時代の象徴として、「ワルシャワの墓石」とも呼ばれ市民からの評判は芳しくない。現在は科学アカデミーをはじめとする各種研究所、3000人を収容できるコンベンションホール、コンサートホール、映画館、劇場、飲食店などが入る複合施設として利用されている。

地上30階、高さ114mにある回廊が展望台Taras Widokowy (XXX-TKA) として開放されている。マルシャウコ



町歩きの日印にもなる高層ビル





文化科学宮殿



東方面

国立競技場 遠望 東方面



東北方面 旧市街地を遠望 白い建物は国立オペラ劇場 すべて第二次大戦後に復興





地上 30 階、高さ 114 ｍにある回廊が展望台として開放されている。

西方面



西南方面

ワルシャワ・ショパン空港の方面



南方面



2019.09/17(火) ワルシャワ蜂起記念碑

記念碑前の広場と教会



苦痛と無念の現れ？「ワルシャワ蜂起記念碑」



佐野 ガイド ロレマ様 マリアンヌ様 佐藤 浜菜 小松社長 金様 杉本 細木



一番先頭の兵士は、下水マンホールから出入りしているのが印象的でした。
「やくも水神」に繋がる？

旧市街市場広場の西にクラシンスキ宮殿のある公園があります。その向かいに立っているのが、苦痛と無念の現れ？「ワルシャワ蜂起記念碑」です。

第二次世界大戦末期の1944年8月1日、ワルシャワ市民が解放間近とみて、ドイツ軍に対して一斉に蜂起しました。一時は市街の中心部が解放されたものの、ソ連の援軍がヴィスワ川の対岸で停滞してしまい、次第に力を失って、20万人もの犠牲者を出してしまいました。その後も破壊は続き、10月に入って降伏する結果となってしまったワルシャワ蜂起。

ワルシャワの破壊



蜂起終結後、火炎放射器による市街の破壊を行うドイツ軍

降伏後、ドイツ軍による懲罰的攻撃によりワルシャワは徹底した破壊にさらされ、蜂起参加者はテロリストとされ、レジスタンス・市民を合わせて約22万人が戦死・処刑で死亡したと言われる。しかし、イギリス政府がワルシャワのレジスタンスを処刑した者は戦犯とみなすとラジオを通して警告したため、レジスタンスへの処刑は止んだ。10月2日、国内軍はドイツ軍に降伏し、蜂起は完全に鎮圧された。翌日、ワルシャワ工科大学に国内軍は行進し、降伏式典の後、武装解除された。降伏した国内軍は、捕虜として収容所に送られた。しかし、武装解除に 응 ぜ ず、地下に潜伏して抵抗を続ける者も多かった。



1944年10月2日、ワルシャワ蜂起指導者タデウシュ・コモロフスキ（左）の降伏を受け入れる鎮圧軍司令官エーリヒ・フォン・デム・バッハ＝ツェレウスキー（右）

市民の死亡者数は18万人から25万人の間であると推定され、鎮圧後約70万人の住民は町から追放された。また、蜂起に巻き込まれた約200名のドイツ民間人が国内軍に処刑されたと言われている。国内軍は1万6000人、ドイツ軍は2000名の戦死者を出した。

一連の戦闘により、ワルシャワの市街地はほぼ完全に破壊され、歴史的建造物や文書などの文化遺産の多くが失われた。ワルシャワの再建には長い年月を要することとなる

この蜂起45周年を記念して、1989年の8月に碑が建てられたのです。

像となった、どのワルシャワ市民の顔にも苦痛と無念さが表れており、見るものの心に迫ってきます。

ワルシャワ・ゲットー蜂起記念碑



図説「ドイツの歴史」

石田勇治編著より

ワルシャワ・ゲットー蜂起記念碑の前のプラント

1970年12月7日、ワルシャワ条約調印のためにポーランドを訪れた西ドイツ首相プラントは、ワルシャワ・ゲットー蜂起記念碑の前にひざまずいた。その姿は世界中に伝えられ、旧交戦国と和解しようとする西ドイツの姿勢を象徴的に示すものとして受けとめられた。



これは「銀い」と言う浮き彫りだ。ここにユダヤ人の蜂起者は戦いに走ってグループの後ろに火が燃える。ワルシャワ・ゲットーの蜂起途中でナチがゲットーを燃やしたから。蜂起者の中には子世を背負っている女の人がある。



ドイツを見なさい
ドイツはこの点 選かに日本を超えています

2017年7月、アメリカのトランプ大統領はワルシャワを訪問した際、長女のイバンカ報道官を「ワルシャワゲットー蜂起記念碑」に赴かせ、自分は足を運びませんでした。これにより彼は、過去25年でここを訪れなかった唯一のアメリカ大統領となりました。大統領が「行った」ことではなく「行かなかった」ことがニュースになる記念碑なのです。



蕭向前 中日友好協会副会長宅訪
「ドイツを超えます」
力強く表明

人間自然科学研究所 HP

「活動のあゆみ」より

2019. 09/17(火) ワルシャワ蜂起記念碑前の教会で、

ソ連軍から侵攻を受けた日を忘れない為の記念行事

ソビエト連邦によるポーランド侵攻は、宣戦布告がないまま開始された軍事作戦であった。

1939 年 9 月 17 日、ソビエト連邦はポーランド東部に侵攻を開始した。

これはドイツが 9 月 1 日にポーランド西部に侵入してから 16 日後のことだった。



抜刀礼



トランペット吹奏



式典終了 退場

9/17(火) キュリー夫人博物館

シュア 電動スクータ(街中に多し)

二頭立ての馬車で遊覧



キュリー夫人博物館

2019年6月に、秋篠宮様ご夫妻がワルシャワを訪問された際に見学されています。



秋篠宮ご夫妻、キュリー夫人博物館を訪問 ポーランド

田 令和

長谷文 2019年6月30日19時33分

シェア ツイート フォロワー 印刷



キュリー夫人が使った実験器具の説明を受ける秋篠宮ご夫妻。2019年6月30日午前10時15分、ワルシャワのキュリー夫人博物館。山本裕之撮影

ポーランドを訪問中の秋篠宮ご夫妻は30日、ワルシャワ市内にあるキュリー夫人博物館を訪れた。

【特集】皇室の系図 →

キュリー夫人はラジウムの発見などで1903年と11年にノーベル賞を計2度受賞した。同館は夫人の生家で、夫人の研究に関する器具や写真などが展示されている。ご夫妻は熱心に館長の説明を聞いた。



バロック様式の砦「バルバカン」



旧市街と北側の新市街との間にバロック様式で造られた、**赤煉瓦の城壁がバルバカン**（Barbakan）。牢獄や火薬庫として利用され、旧市街の出入り口としての城門の働きと守備要塞としての堡塁の役目があったものです。ワルシャワとクラクフ、それにフランスのとある町を含めて、ヨーロッパでは3カ所しか残っていない円形の砦で、円錐形や四角錐形のとんがり帽子のような屋根が可愛らしい建物です。1548年に建設された砦は、第二次大戦後、再建工事が行われ、1953年～1954年に、モストヴァ通りとポドヴァレ通り側の城壁と共に、完全に復元されました。今では、壁面に写真が展示され、内部に土産物屋が入り、名産の琥珀や民芸品が売られています。城壁の上を歩くこともできますが、眺めはさほど素晴らしいというほどではありません。

バルバカン 城壁跡





旧市街を守る砦の跡

バルバカン

Barbakan (Barbican)

Map P.223-B2

16世紀半ば、旧市街を
防衛する目的で建
造された砦。1656年の北方戦争の際、スウェーデン軍の侵攻をここで受け止めた。現在は似顔絵描きや露店が並び、とてもにぎやか。



バルバカンの先が新市街



昼食 ウ・フキエラ 老舗レストラン



ワルシャワを代表する老舗

U Fukiera

ウ・フキエラ

伝統
レストラン

300年以上の歴史をもつ老舗。古いオーク材をキャンドルが照らし、エレガントな雰囲気。伝統的なポーランド料理に西洋料理のテイストを加えた料理が人気。ディナーはスマートカジュアルで。

📍 Rynek Starego Miasta 27
☎ 22-831-1013 🌐 ufukiera.pl
🕒 12:00~23:00LO 📺 無休 💰 120zł~
🍷 A D J M V
🚶 旧市街広場から徒歩1分。



①ワルシャワ名物、鴨のロースト リング添え95zł ②生の牛肉を刺んだビーフタル37zł。タマネギやスパイスを添えて食べよう ③伝統を感じるクラシカルな店内





ウ・フキエラ 老舗レストラン は 伝統を感じるクラシカルな店内



ガイドさんに 書籍「岩より水」贈呈





Old town 旧市街地広場 レストラン前でオペラ案内の通訳さんに出会う



カラフルな建物と人魚像の旧市街市場広場

悲劇の歴史から復興！ポーランドの世界遺産ワルシャワ



← 広場の左側に 昼食レストラン

第二次世界大戦で壊滅状態となったポーランドの首都ワルシャワ（Warszawa）。大戦後の復興期には、記録を頼りに「煉瓦の壁の罅 1 本までも忠実に」と目指して、市民たちができる限りの努力で元通りに復元したという町並みが広がっています。1980年には、「ワルシャワ歴史地区」として世界遺産に登録されました。ワルシャワ中心部は、南北に流れるヴィスワ川の西側に位置し、旧市街や博物館などの観光スポットが集中しています。旧市街と新市街が隣り合い、旧市街の中心となるのが、カフェ・レストランのテラス席や露天の画商が並ぶ石畳の広々とした旧市街市場広場です。旧市街と言っても、大戦後に建てなおされたものであり、よく見てみると、古い建物ではないことがわかります。が、よくぞここまで忠実に復元できたものだと、感心するばかり！

この広場に面して、カラフルな建物が建ち並び、広々とした石畳の真ん中には、人魚像が立っています。ワルシャワのシンボルとして、盾を持って勇ましく剣を振りかざす人魚の像です。



ロレマ様の教え子に
偶然にもバッタリと
出会われたようです。
元気いっぱい



第二次世界大戦 ドイツ軍による戦争被害写真 ワルシャワの街は壊滅



ワルシャワ蜂起降伏後にナチスにより徹底的に破壊された街。ヒトラーはワルシャワを平原にすると命令していたそうです。

左のビルは実は、見えてる前壁部分のみが残って、後ろはなし。(衝立状?)

現在は、前頁の一番上の建物に復活。

ワルシャワ最古の教会 聖ヨハネ大聖堂



ワルシャワ最古の教会

1分

洗礼者ヨハネ大聖堂

Bazylika Archikatedralna P.W. Męczeństwa św. Jana Chrzciela
(Cathedral Basilica of the P.W. Martyrdom of St. John the Baptist)

Map P.223-B3

ワルシャワ最古の教会。歴代のポーランド王のなかで、スタニスワフ1世とスタニスワフ2世のふたりが戴冠式を執り行っている。ヨーロッパ最初の成文憲法「5月3日憲法」の憲法宣言式も1791年にここで行われた。

☎ Kanonia 6 ☎ 22-831-0289

🌐 www.katedra.mkw.pl

🕒 10:00~12:00, 16:00~18:00

🚫 無休 📬 寄付



夏季にはオルガンコンサートも行われる



ネオ・ゴシック様式のファサードが印象的

大戦後に復元された町 旧市街さんぽ

第2次世界大戦でドイツに破壊されたワルシャワ旧市街。戦後、町は「ひびの一本にいたるまで」と呼ばれるほどの精密さで復元され、かつての美しい姿を取り戻した。そんな歴史を知っておくと、散策はよりおもしろくなる。

旧市街への アクセス

旧市街への拠点となる地下鉄駅は、ラトウズ・アルセナル駅。駅から王宮広場までは徒歩15分。トラムなら、4、13、20、23、26番Stare Miasto下車、徒歩1分。



旧市街の南端 王宮広場

pl. Zamkowy
Map P.223-B3

徒歩
1分

宮殿や教会が並ぶクラクフ郊外通りの北端。広場の中央、高い石柱の上で十字架を手にして建っているのは、1596年に首都をクラクフからワルシャワへ移したジグムント3世の碑。現在3代目で、広場の東の端には1・2代目の柱が残っている。



周囲にはカフェや
レストランが並ぶ

START



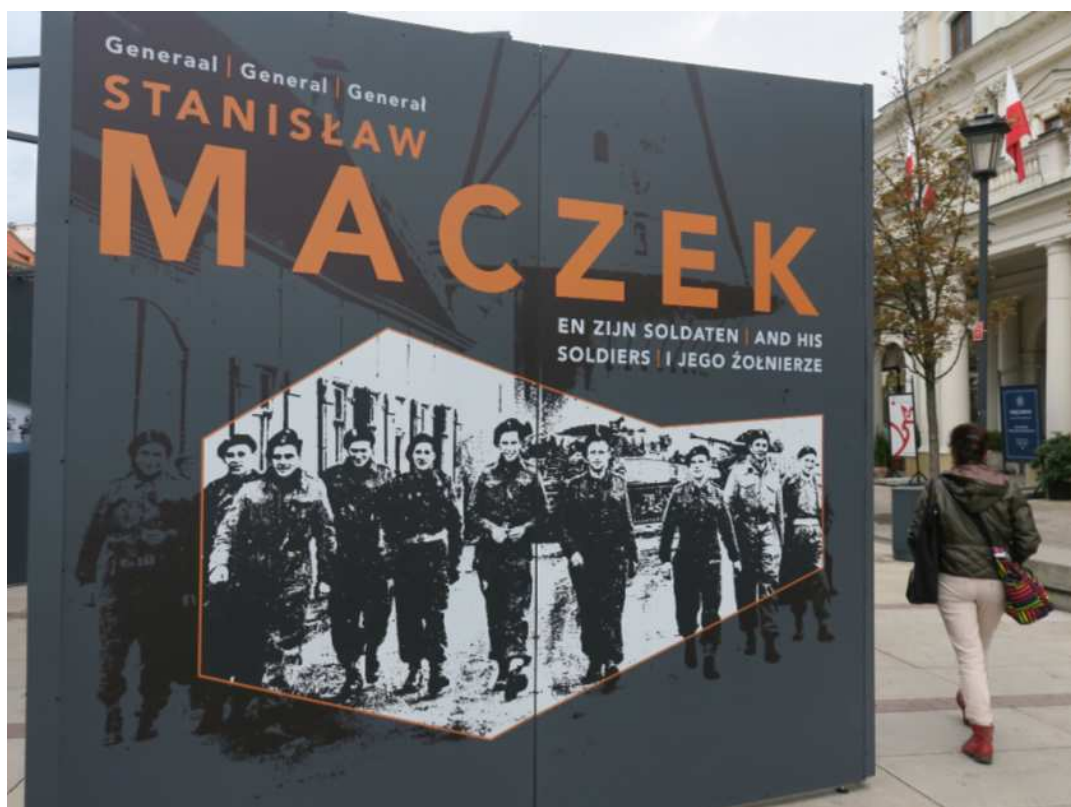
旧王宮前の広場。中央に立つのがジグムント3世の碑



細木 佐野 ロレマ様 金様 小松社長 佐藤 杉本 浜菜 マリアンヌ様

散策

第二次大戦 年代別写真提示 衝立状のモニュメント クラクフ郊外通り沿い



ショパンがマルシャワを出発した時に利用したホテルが道路向かい ガイドさん後方向かい



ポーランド詩人 ダム・ミツキエヴィチの像



大統領官邸 前庭広場にポーランドの英雄 ユーゼフ・ポニャトフスキ像



プリストル ホテル（雨宿りで立ち寄る） 公式行事などが行われるホテルで格式あり



強風 雨の中 ショパン演奏会場へ移動



ショパン名曲コンサート 鑑賞会 プログラム



Program Koncertu:

Piotr Latoszyński – fortepian / piano
FRYDERYK CHOPIN (1810-1849)

Polonez A-dur op. 40 nr. 1
Polonaise in A major, Op. 40 No. 1

Preludium e-moll op. 28 nr 4
Prelude in E minor, Op. 28 No. 4

Preludium Des-dur op. 28 nr 15
Prelude in D flat major, Op. 28 No. 15

Fantaisie-Impromptu cis-moll op. posth
Fantaisie-Impromptu in C sharp minor, Op. posth

Nokturn cis-moll op. posth
Nocturne in C sharp minor, Op. posth

Etiuda E-dur op. 10 nr 3
Etude in E minor, Op. 10 No. 3

Etiuda Ges-dur op. 10 nr 5
Etude in G flat major, Op. 10 No. 5

Etiuda c-moll op. 10 nr 12
Etude in C minor, Op. 10 No. 12

Nokturn Es-dur op. 9 nr 2
Nocturne in E flat major, Op. 9 No. 2

Walc Des-dur op. 64 nr 1
Valse in D flat major, Op. 64 No. 1

Walc cis-moll op. 64 nr 2
Valse in C sharp minor, Op. 64 No. 2

Mazurek a-moll op. 17 nr 4
Mazurka in A minor, Op. 17 No. 4

Polonez As-dur op. 53
Polonaise in A flat major, Op. 53



コンサートチケット 18:00 演奏開始



Koncert chopinowski / Chopin recital

Fortepian / Piano – Piotr Latoszyński

Stara Galeria ZPAF
pl. Zamkowy 8, Warszawa

Organizacja: Time for Chopin Sp. z o.o. sp.k.
Biuro: Plac Zamkowy 8, 00-277 Warszawa, www.timeforchopin.eu

Codziennie 3 Row
Godzina 18:00 6 Place

ピアノ曲演奏 前半 8 曲 (休憩) 後半 5 曲
休憩の間に、ワインサービス





13 曲 演奏後に
アンコール曲を 2 曲

宿泊ホテルのロビーで打ち合せ 子ども大学 ガサ地区の子ども支援





(参考) ワルシャワ市内に ドゴールの像



シャルルドゴールの像、なぜポーランドにシャルルドゴールの像があるのだろうか？

と思った方もいると思います。第1次大戦後に軍事顧問としてポーランドに赴任していた時期があり、その時の活躍にちなんで建てられた物だそうです。

(ネット記事より)

BMWの電気自動車を見つけました！ 初めて見ました。

歩道には充電器が設置されており充電中です。

トロリーバスや路面電車など意外とエコなポーランドです。



ワルシャワは EV 化促進の政策を進めており、歩道脇に充電スタンドが設置されているそうです。(佐野 調べ)

2019.09/18(水)

朝食後 半日 ワルシャワ市内観光 歴史経過探索



↓ 文化科学宮殿の塔先端が見える（ホテルの窓より）



2019.09/18(水) **ワジェンキ公園 ショパン像**

柳の木の下に ショパン像



前夜に、ショパンの演奏会を聴いたばかりですので 皆様の感激もひとしおです。



東京オペラ協会のオペラ出演キャストの方に出会いました。今夜はよろしく・・・。



ワジェンキ公園 内を 散策



水上宮殿前



マリアンヌ様 浜菜 ロレマ様 小松社長 金様 杉本 佐藤 細木 佐野



この先を出て、右に向かう(駐車場方向)と、近くに「**日本大使館**」がある。



(ワジェンキ公園)

ワルシャワ市中心部よりもやや東側にある公園で、池のほとりに建設された**ワジェンキ宮殿**が、公園の名前の由来となっている。ヨーロッパの公園の中でも、美しさが有名で。バラの庭園やショパン像などがある。中でもショパン像は、ワルシャワを代表するシンボルの1つとして有名で、夏の間は毎週日曜日には、1日2回このショパン像の下で、コンサートが行われる。「ワジェンキ宮殿」は、まるで池の水に浮かんでいるような美しい景観から、別名「**水上宮殿**」とも呼ばれる。現在、宮殿は国立博物館の分館として使用され、一般公開されている。この宮殿も、第二次世界大戦により、壊滅的な被害を受けた。現在の美しい宮殿の姿は、これも市民が精密に復元したものである。

2019.09/18(水) ショパン博物館



ショパン音楽大学は、ワルシャワ音楽院、ショパン音楽院とも呼ばれる、世界屈指の名門国立音楽大



ポーランド生まれの音楽家 ショパンゆかりの地巡り

ショパンが20歳まで過ごしたワルシャワには、ゆかりの場所が点在。
特にワジェンキ公園から王宮広場へと続く道は
「ショパンの道」と呼ばれ、観光ポイントがめじろ押し。

★ SPOT 01 ★



かつての宮殿を利用している

CHECK!

1時間に70人という人数制限を設けているため、入場には事前の時間指定が必要になる(ウェブサイトで予約可能)。オフシーズンなら直接行ってもすぐに入場できる。

ショパンのすべてがわかる

ショパン博物館

Muzeum Fryderyka Chopina
(Frederik Chopin Museum)

(新世界通り周辺) Map P.222-C4

バロック様式のオストログスキ宮殿Zamek Ostrogskich内。国内外から熱心なファンが詰めかける博物館で、7000点を超える関係資料、写真を所蔵している。地上3階、地下1階を使った展示は最新の設備を用いており、ショパンの生涯を作品をさまざまな角度で紹介している。

住 Okólnik 1 ☎ 22-441-6251

URL muzeum.nifc.pl

開 11:00~20:00 休 月

料 大人22zł、子供・学生13zł

※水曜は無料

行き方 >>>

地下鉄2号線ノヴィー・シウィアット・

Level 2

ショパンの死と私生活に関する展示。旅先から友人に当てた手紙のほか、死に顔から型をとったデスマスクなど死をテーマにした衝撃的な展示もある。



“死”のコーナーにある、ショパンのデスマスク



ショパンが訪れた各国に関する展示

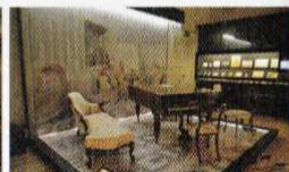
ユニバーシティット駅Nowy Świat-
Uniwersytet下車、徒歩5分。

Level 1

ショパンが活躍したパリ時代の展示。パリのサロンの再現やパトロンジョルジュ・サンド、ショパンが最後に使ったブレイエル社製のピアノも置かれている。



ショパンが最後に使ったブレイエル社製のピアノ



再現されたパリのサロン

Level 0

ショパンが生を受けたジェラソヴァ・ヴォラ(→P.250)や彼の家族に関する展示が中心となっている。博物館の入口とチケットオフィスもこのフロアにある。



ショパンとその家族の肖像画



ショパンの音楽が流れるシートがある

Level -1

地下1階。ショパンが作曲を手がけた全曲が聞けるオーディオプレイヤーがメイン。ほかショパン自身の左手や直筆の譜面なども展示されている。



遺体から型を取って作ったという、ショパンの左手



ピアノやヘッドフォンでショパンの全曲が聴ける

ショパン博物館に行く途中に シェアー式電動スケーターあり



ショパン博物館をバックに



← ショパンとその家族

ショパンの恩師 卒業証書に将来有望と添え書き



再現されたパリのサロン



ショパンが最後に使ったブレイエル社製のピアノ



ガイドさんの丁寧な説明



2019.09/18(水) ショパン博物館の近くで 昼食



女性陣 専用車でショッピング

男性陣 タクシーで宿泊ホテルへ:タクシー代 16ズウォティ

ポーランドの基本情報



▶ポーランド語会話術
→ P.354

国旗
白と赤の2色旗
正式国名
ポーランド共和国
Rzeczpospolita Polska
国歌
Mazurek Dąbrowskiego
(ドンブロフスキのマズルカ)
面積
約32万2575km² (日本の5分の4)
人口
約3843万4000人 (2017年12月)
首都
ワルシャワ Warszawa
元首
アンジェイ・ドゥダ大統領 Andrzej Duda

政体
共和制 (2004年5月からEUに加盟)
民族構成
ポーランド人93.5%、その他ドイツ系、ベラルーシ系、ウクライナ系など。
宗教
ローマ・カトリック87.5%。ほかにポーランド正教会 (東方正教会)、プロテスタントなど
言語
公用語はポーランド語 (スラヴ語派)。外国語は、中・高年層にはドイツ語やロシア語が、若年層には英語、ドイツ語、フランス語が比較的通じる。

ポーランドの通貨はズウォティ (złoty)。本書ではzlと表記する。補助単位としてグロシュ (grosz) がある。本書ではgrと表記する。1zl=100gr。2019年3月18日現在、1zl=約29.34円、€1=約4.3zl。ユーロの導入は未定。

紙幣は10zl, 20zl, 50zl, 100zl, 200zl, 500zl。硬貨は1gr, 2gr, 5gr, 10gr, 20gr, 50gr, 1zl, 2zl, 5zl。2016年2月より新デザインの紙幣が流通している。写真は新デザインのもの。

クレジットカード
中級以上のホテルや旅行会社、レストランならたいいてい使えるほか、ATMも普及している。

両替
町なかにかントル Kantorと呼ばれる両替商がたくさんある。レートは店によって差があるが、週末の両替、ホテル内や駅の近くのcantorは、比較的レートが悪い。

1ズウォティ 2ズウォティ 5ズウォティ 10ズウォティ 20ズウォティ

50ズウォティ 100ズウォティ 200ズウォティ 500ズウォティ

1グロシュ 2グロシュ 5グロシュ 10グロシュ 20グロシュ 50グロシュ

2019. 09/18(水) 聖十字架教会にて 東京オペラ協会 石多エドワードさん監督の
オペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」ポーランド巡演を観劇
聖十字架教会は、金銀がふんだんに使われた荘厳な教会。
パリで死去したショパンの心臓が柱に埋め込まれて祀られている由緒ある教会。

ズットナー像を車へ



聖十字架教会の外観



聖十字架教会の内部正面



ショパンの心臓が埋め込まれてる柱



ズットナー像 2 体を正面より左側にのみ配置（右側は オペラ演技の出入り口の為）



現地会場配布の 公演プログラム (A4 製本 全 12 頁) より要部抜粋

100
POLAND • JAPAN

Wydarzenie z okazji 100. rocznicy nawiązania stosunków
dyplomatycznych między Japonią i Polską

Kompozytor : Minao Shibata Skrypt : Edward Ishita

オペラ
志、水、山、た、少年
天正道歌少年使節



Mam nadzieję, że ta opera przyczyni się do międzynarodowej wymiany kulturowej.
Proszę, rób wszystko co w twojej nocy dla pokoju na świecie. Dziękuję Bogu.
Jan Paweł II

この演目のテーマになっている、「天正遣欧少年使節」は、記録に残る、日本人とポーランド人の最初の出会いとされています。九州のキリシタン大名の名代としてバチカンに派遣された4名の少年キリシタン教徒たちは、1585年のローマ滞在中心、スタニスワフ・コスコフの墓所を訪れ、ポーランドの王命により派遣されていたベルナルト・マチェヨフスキ司教（後のポーランドの首座大司教）の依頼で、タビタの讃美歌の一部を日本語に翻訳しました。

また、総監督の石多エドワード様は、1992年に謁見した故ヨハネ・パウロ2世ローマ法王から、「このオペラで世界平和のために頑張ってください」とのお言葉を賜ったとのことでした。

2019年2月12日
前田万葉



Taro Kono
Foreign Minister of Japan

本演日は、1990年以降、世界各地で公演されていますが、今般のポーランド公演に際しては、現地のオーケストラや舞踊団、合唱団の参加も得て公演されると聞いております。両国国民が一体となって、この記念すべき年を盛り上げてくれることと期待しております。

私自身、かつてポーランドでの留学経験を有し、昨年7月にポーランドを再訪することができました。その際、ポーランドの哲学者から款待を受け、長年にわたる両国の友好関係は深い友情に裏打ちされているものであることを改めて認識することができ、大変うれしく思いました。

世界平和を願い、長年にわたりオペラを通じた国際交流に携わられた東京オペラ協会に対し敬意を表しつつ、本公演が国交樹立100周年記念事業の一環として、日本とポーランドの友情を更に深めてくれるものと期待しております。

2019年1月
河野太郎
日本国外務大臣



Tsukasa Kawada
Ambasador Japonii w Polsce

ポーランド公演キャスト表 (Rola)		15.09
指揮	Dyrygent	Nozaki Makoto
伴奏	Akompaniament	Nozaki Makoto
ときゆく者	Wędrowiec	Ishtia Kayoko
少年マルチノ	Wyslanecy Martino	Yoshiji Miyuki
少年マンショ	Wyslanecy Mancio	Takahashi Shoko
少年ミゲル	Wyslanecy Michael	Hada Michiyo
少年ジュリアン	Wyslanecy Julian	Harada Kyoko
グロニヤナ	Voisgniani	Kunimoto Takako
大名	Daimey	Hirata Osamu
歌姫	Arcykaphan	Kurata Masayuki
ザビエル	Ksawery	Edwards
ベルナルド	Bernard	Yoshizato Tokio
ローマ法王	Papież Grzegorz XIII	Yamaguchi Ryojima
フィリップ2世	Król Hiszpanii i Portugalii Filip II	Yamaguchi Ryojima

駐ポーランド特命全權大使 川田 司

公演プログラムに挟んで配布

Edward Julian, Kaswery	Korata Masayuki Hidexoshi, Areykaplan	Ishita Koyuko Wedrowiec, Michael
		
Edagawa Katsuya Martino	Konimoto Takao Mancio, Valigniani	Yamaguchi Yoko Michael
		
Tamura Takako Michael	Iwanaga katsuya Valigniani	Hirota Osamu Daimyo
		

日本・ポーランド国交樹立100周年記念

オペラ「忘れられた少年～天正遣欧少年使節～」ポーランド直演

光の柱プロジェクト

樹立の文明から其生の文化が生まれる所の活動
この機会に、東郷の活動に敬意を込めて制作します

沖縄

東郷 龍雄 先生 追悼会

鳥根

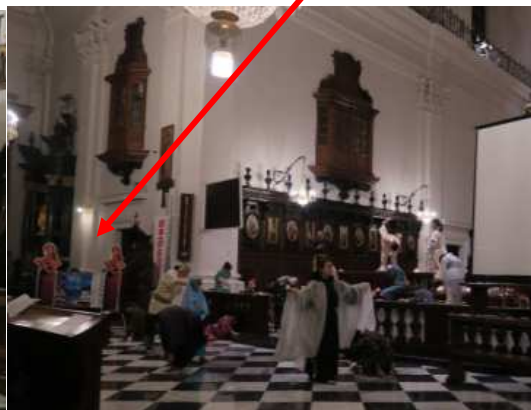
東郷 龍雄 先生 追悼会

鳥取

東郷 龍雄 先生 追悼会

[illegible]

オペラ「忘れられた少年―天正遣欧少年使節」ポーランド巡演 スタート **ズットナー像**



↑ **ビデオカメラ**はこの位置で録画しています。

聖十字架教会内に響きわたる オペラの歌声 反響が素晴らしいです。



左右のブツナー像を結節する光の柱プロジェクトのタペストリー、日本一のむらづくりの旗







オペラに感動・感激　小松社長以下　随行者一同　オペラに引き込まれて観劇されています。





前半終了 休憩です

ショパンの心臓が埋め込んである柱です。



細木 佐藤 ロレマ様 杉本 金様 小松社長 マリアンヌ様 浜菜
後半スタート 豊臣秀吉に拝謁





ビデオカメラは この位置にセットして録画中 ↑



花束贈呈 ロレマさんの時に 前へ出そびれました



浜菜さんの時には なんとか 前に出て 撮影できました。







フィナーレです



中央通路から退場



オペラ終演 お疲れ様でした。記念写真です。



浜菜 杉本 マリアンヌ様 ロレマ様 ズットナー像

小松社長 金様 細木 佐藤 佐野

石多エドワードさんと一緒に記念写真です



浜菜 石多エドワード様 佐藤

マリアンヌ様 杉本 金様

小松社長

細木

佐野

ロレマ様

東京オペラ協会の皆様にご一緒させていただき 記念撮影です。



2019.09/19(木) ワルシャワのホテルをチェックアウト

午前四時 専用車(バス)2 台に分乗して、オシフィエンチムに向かう。

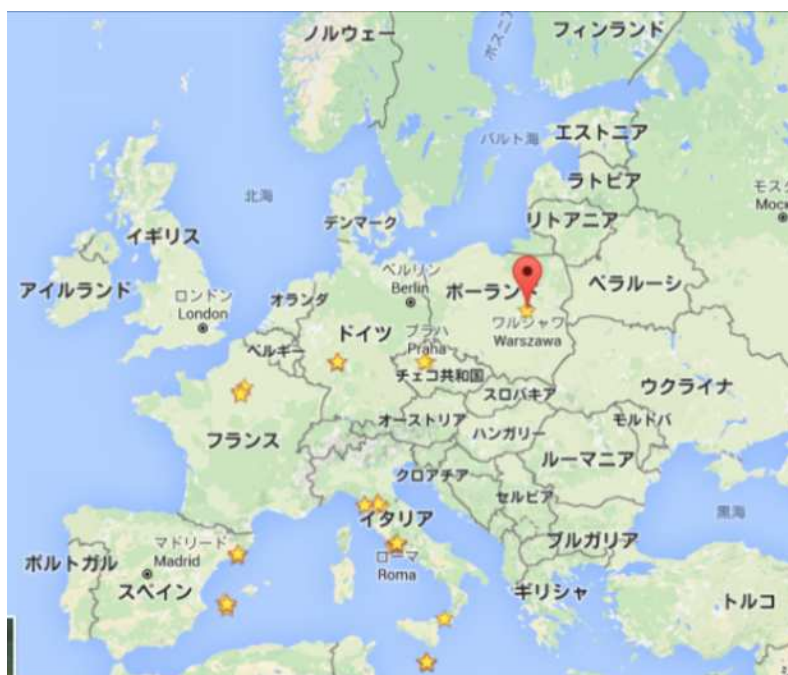
世界遺産 アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所(第2 収容所) 見学予定



途中のガソリンスタンドのストアで朝食をゲットしました。 感謝



朝食ゲット、一路 オシフィエンチム(アウシュヴィッツ)に向かいます。



ワルシャワ 朝 4 時 出発→9 時 オシフィエンチム(アウシュヴィッツ)到着 (約 5 時間)
 中間地のガソリンスタンド内のストアで朝食ゲット 深謝

アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所(第2収容所)の駐車場に到着



死の門と言われる建物に引き込まれていく線路

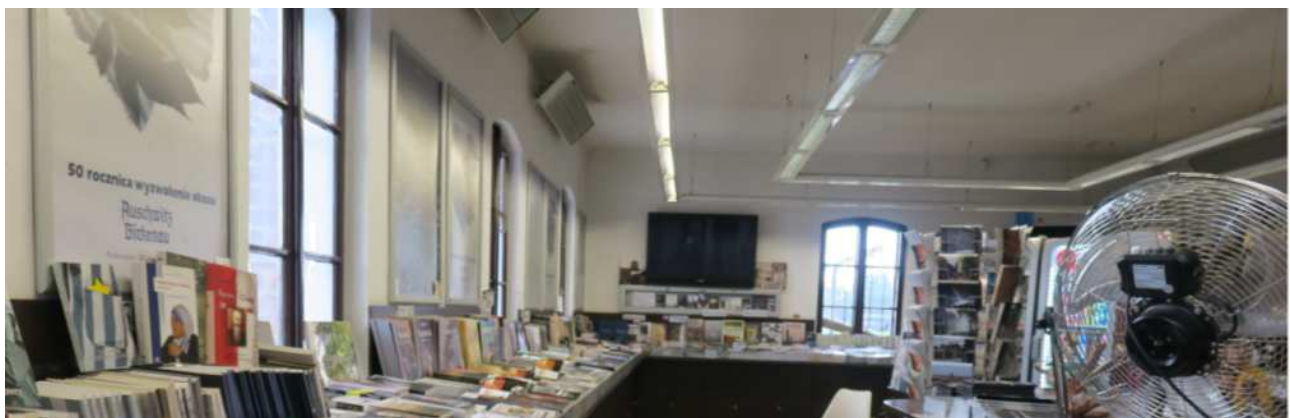


死の門 「この門に入るとお前たちの出口は煙突だけだ」と言われたビルケナウ監視塔下の門

アウシュヴィッツの全体図



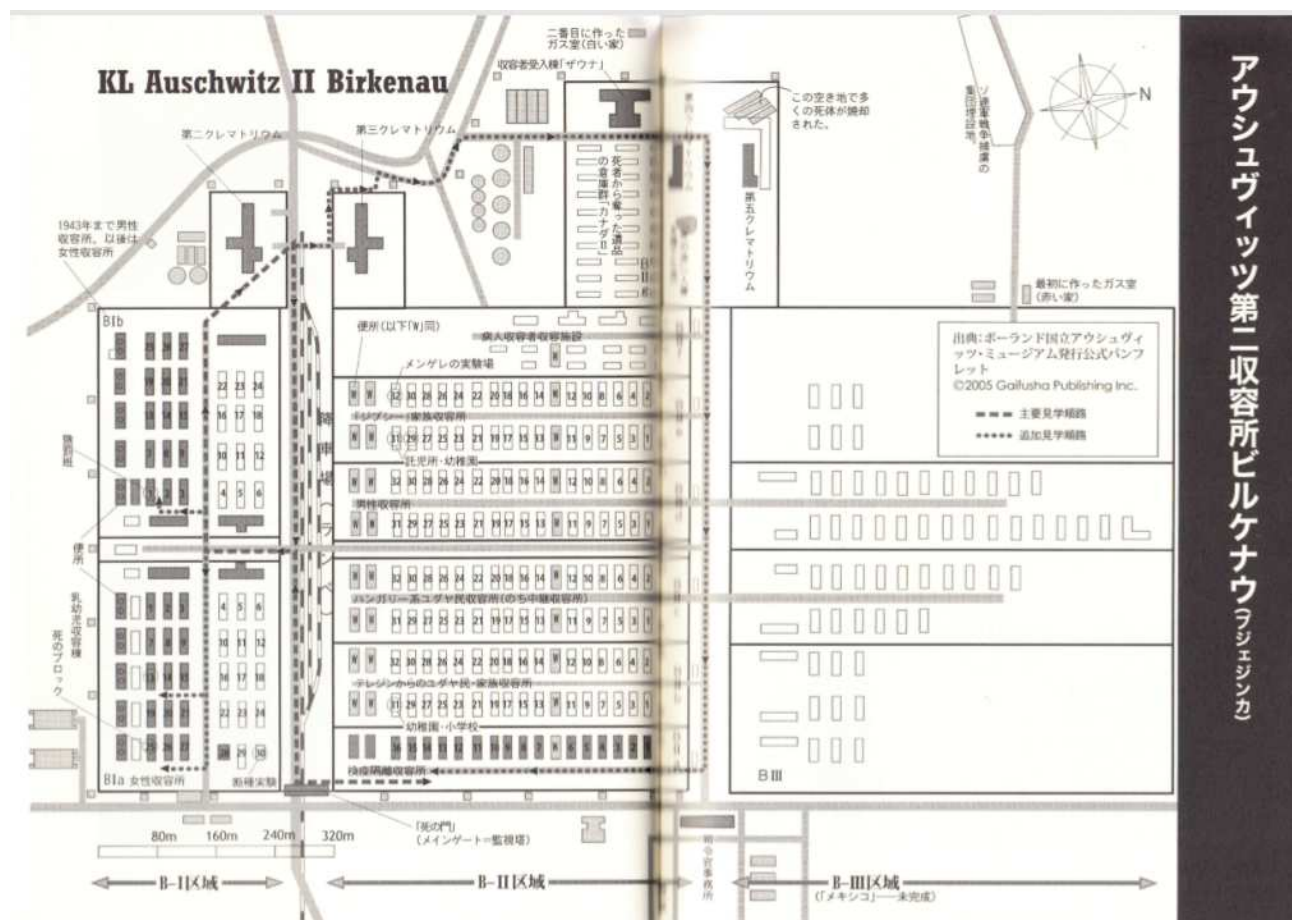
書籍販売所



日本語ガイドさんの説明を聞きながら・・・



敷地面積 当初 70ha → 爾後拡大 140 ヘクタール(東京ドームの約 13 個分) 300 棟近くの収容棟





死の門から引き込まれてくるレールが3つに分かれる



貨車で送り込まれた人の選別場(元気を医師が選別する)付近でガイドさんの説明を受ける。

このような家畜用貨車に 80 人くらいの人が立放っしで、ぎゅうぎゅう詰めで搬送されてくる。

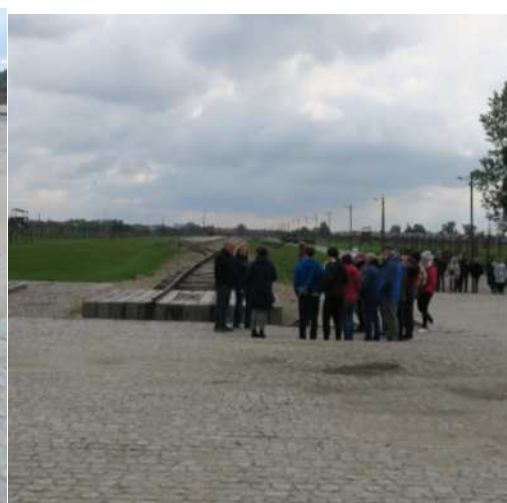


貨車から降ろされた人は、医師が選別。元気な人は労働、人体実験用、働けない人、子供はガス室へ





犠牲になられた方々の国ごとの言葉を刻んだ慰霊碑文、奥側に全体の慰霊碑(第三ガス室跡地)

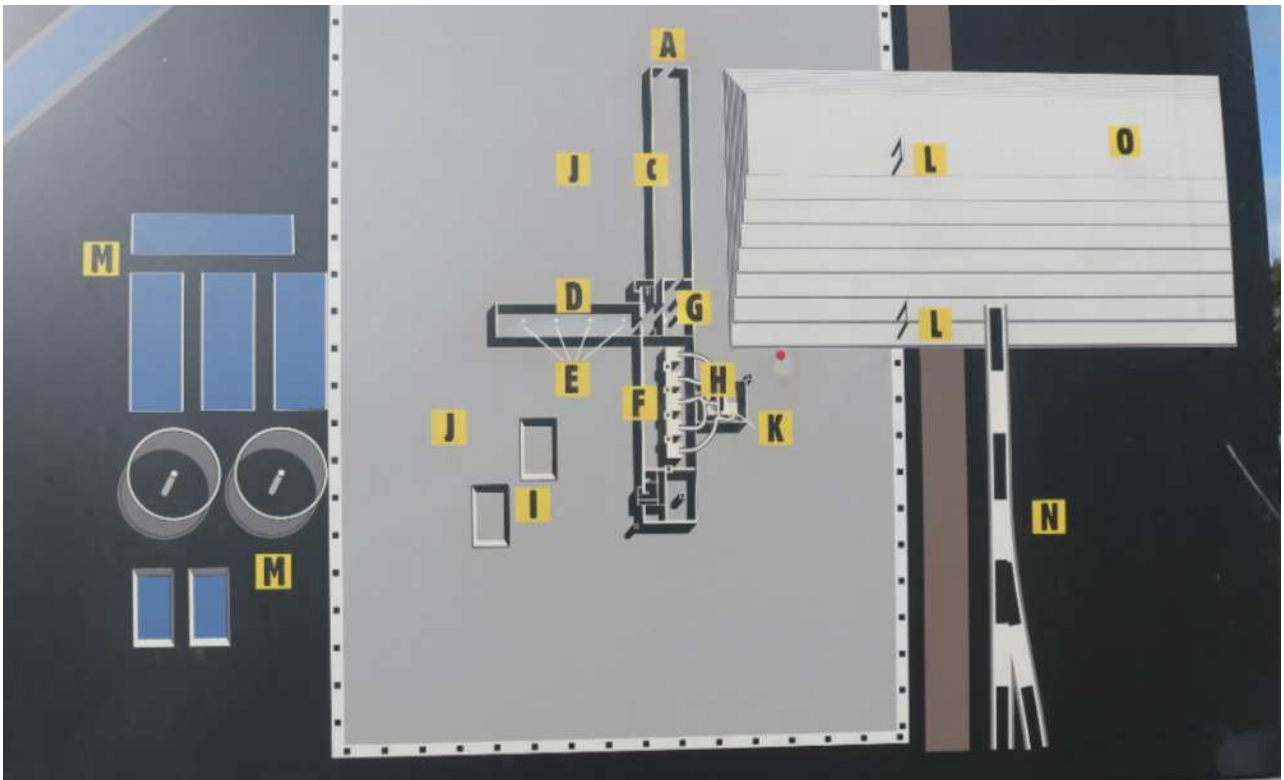


小松社長 慰霊碑に黙祷



破壊されたシャワー準備室、その先の右側に毒ガス室

A 入り口階段 C シャワー準備室(地下室で裸になる) D 偽装シャワーを設置した毒ガス室
E 毒ガス材 チコン B の投入口 F 遺体焼却室 G 遺灰取り出し口



毒ガス室には裸の人が密集しており体温で温度が上昇。コーヒー豆より小さな粒のようなチコン B を投下すると暑くなっているところでガス化され、連日 命の灯が消えたそうです。

人類には忘れてはならないレールの分岐点があります。人間は怖い一面を持っている。人をあまり上にしてはいけない。廻りも思考停止しないようにすることが肝要。(日本国内 TV ドキュメントより)



毒ガス室に送られる人の待機収容棟。食事なし、真冬でも満員だと屋外に寝かされていたとのこと。



三段ベッドの感じだが、各棚にぎゅうぎゅう詰めに押し込められていたとのこと。



たまたま鳥取から来られた方と一緒にになりました。



昼食後に、クラクフに向かう時、第1収容所入り口のところまできてUターンしてから行く。

2019 .9/19 （木） 14:00～ クラフク州知事主催 歓迎レセプション参加(国立クラフク歌劇場)

★ オシフィエンチム(アウシュヴィッツ)から、クラフク歌劇場に移動



★国立クラフク歌劇場 に 到着 （建物外観）



歓迎レセプション



クラフク州副知事の歓迎挨拶

石多エドワードさん挨拶



石多エドワードさん挨拶の中で小松社長をご紹介 乾杯の音頭を依頼される。



小松社長挨拶 平和・環境・健康 日本・出雲から陽が昇る「光の柱プロジェクト構想」について説明



西洋代表 ロレマ様、韓国代表 金美正様、日本代表 佐藤京子様と一緒に 乾杯



小松社長の乾杯発声で、乾杯!、乾杯!、カンパイ!



石多エドワードさんを囲んで乾杯!



オペラ「忘れられた少年」出演キャスト紹介



石多エドワードさんの指揮によりオペラ曲を合唱





浜菜さんの司会により

ズットナー像をロレマさんが説明



ステージマイクは、乾杯の後で すぐに片付けられてしまい マイクなしで説明。

花柳萌淡 (佐藤京子)さんの 日本舞踊「寿獅子」





東京オペラ協会のオペラ「忘れられた少年」出演キャストの人と一緒に記念写真

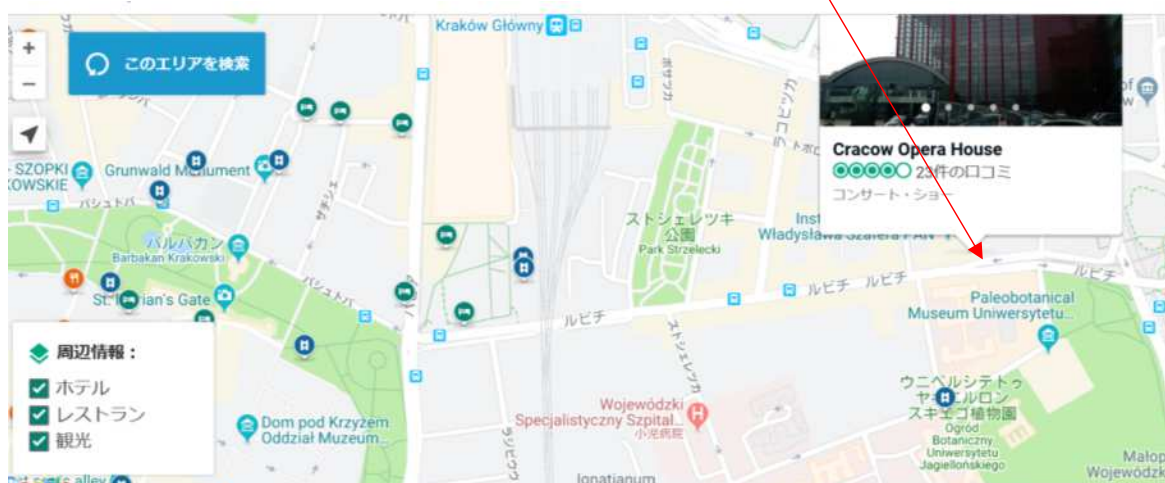


ズットナー像とロレマさん（レセプション会場では一体のみご披露）

レセプション終了後のミーティング



レセプション会場 国立クラクフ歌劇場(クラクフ オペラ ハウス)の場所



Cracow Opera House

23件の口コミ | 158位: クラクフの観光スポット286軒中 | コンサート・ショー, オペラ
ul. Lubicz 48, Krakow 31-512, Poland

♡ 保存 | ➦ シェアする

口コミのハイライト

“新しい。”

中央駅から tram で2区間くらいのところにあり、モダンで新しいものでした。シーズン中はびっくりするくらい安くオペラが堪能できます。私は買ったチケットは1000円ちょっとだったので、期待していませんでした... 続きを読む



2016年10月1日に投稿しました
Advertiser803473, 東京23区, 東京都

23件すべての口コミを読む



2019. 9/19 (木) クラックフ 夜の会食

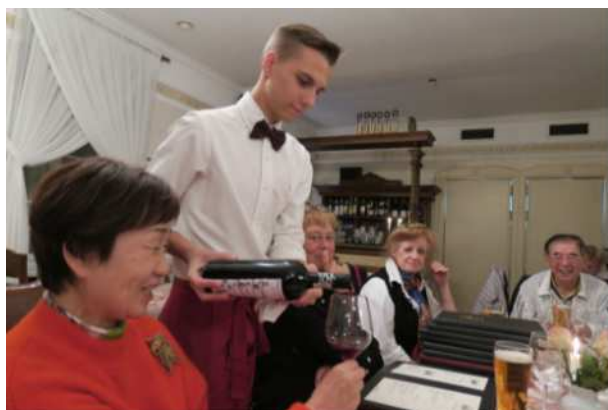
第二都市 クラックフ 絶品ポーランド料理店

<https://witam-pl.com/2017/03/21/blog348/>



Restauracja JAREMA

レストウラツィア・ヤレマ



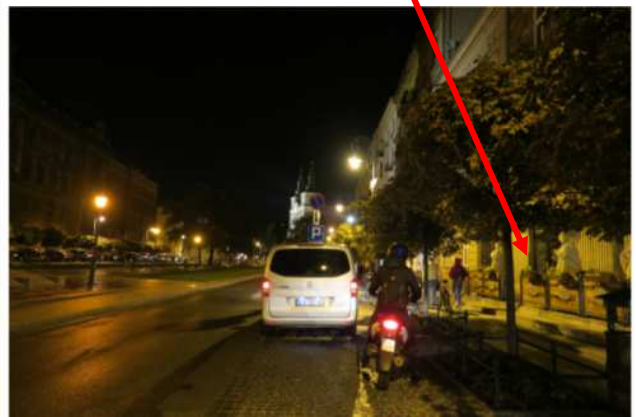
朝早く ワルシャワからお世話になった タクシードライバーさん



マテイキ広場



の 道路隣に 絶品ポーランド料理店 ヤレマ



お店前にて ロレマさん



ワルシャワからクラクフまでお世話になったタクシー



ベスト ウェスタン プレミア
クラクフ ホテル (Best
Western Premier
Kraków Hotel)

クラクフの宿泊ホテル

(参考) クラクフの地政学

空港の場所

ホテルの場所



クラクフ旧市街地(夜の会食)

クラクフ歌劇場

2019.9/20 (金) クラクフ ホテルチェックアウト ワルシャワ 経由 成田へ
ロレマ様 と しばしのお別れ



宿泊ホテル ベストウエスタン プレミア クラクフホテル の ロビーにて



浜菜 細木 金 佐野 小松社長 杉本 ロレマさん マリアンヌさん 佐藤

クラクフ上空からの 農地状況



ワルシャワ上空からの 市街化・農地状況



ワルシャワから 11 時間余りのフライト。成田空港へ帰りました。金美正さんとお別れです。



昨年ソウルでお会いしてから 1 年半振りの再会 深謝



出雲空港へ 無事 帰りました。皆様にお世話になり 大変ありがとうございました。

【ポーランド訪問 イングリッド・ロレマさんのご挨拶】

Dear all,

Mister Shinichiro did again wonderful translation work. Thank you so much mister Shinichiro Nakamura!

2019年9月24日

ポーランド旅行参加者の皆様へ、ロレマさんのご挨拶

こんにちは、

皆様おそろいで楽しい旅を終えて、日本へご帰国なさったことと思います。マリアンヌと私にとりましても、今回の旅はとても貴重な経験になりました。私が初めてポーランドを訪れたのは、もう30年も前のことです。当時、ポーランドは「鉄のカーテン」の向こう側の国で、人々はとても貧しく、何事に怯えて暮らしていました。そこに奇跡が起こったのです。彼らはもはや、西ヨーロッパの人々と見分けがつかずません。絶滅収容所訪問は、最もショッキングなできごとでした。2つの意味でショッキングです。一つはこれが歴史上つい最近起こった出来事であるということです。私達は、家族を通じて、あるいは学校で非常に多くのことを学びます。さらにショッキングなことは、これがまさしく人間によってなされたという事実です。人類が同じ人類になした行為なのです！間違った体制を選べば、こうなっ

しまうのだという現実を目撃し、ショックでした！

日本と隣国との間には、非常にデリケートな対立的緊張関係がいまだに続いており、いつ衝突に繋がるかしの脆さが感じられます。私は、これは国の体制が絡んでのことだと考えています。

オペラも別の意味でショックでした。私達は全くばちくり目状態でしたよ！オランダの伝統からすれば、教会でオペラを演じるなんて考えられません。しかし、声の通りは信じられないくらいでした。私達は二人ともカトリック教徒ではありませんので、驚いたのです。オランダに帰国してから、写真を家族や友人に見せましたが、神の館として使われている教会で、オペラを上演するなんて、皆一様に信じられない、と言っていました。これは、私達がカルビン派新教徒の子孫であり、カトリック教徒ではないということに関係しています。(訳者注：宗教改革以前の中世ヨーロッパでは、教会の外庭等でしばしば宗教劇が演じられていた。登場人物は、真理とか欲望とか貞節とかいう名で、解りやすく教義を広める目的があった。)

私達はクラクフにもう一泊しましたが、これは素晴らしかったです。豊かな歴史にあふれた、美しい町です。何枚か、写真をお見せしましょう。水の無いベニスの町とでも言えいいでしょうか。塩の鉱山にある大聖堂にもお参りしましたよ！サングラスを持参したのは大成功でした。私のサングラスを貸してほしいという人が大勢いました。借りて自撮りをするのです。売ってくれないかと言う人もいましたよ。サングラスのお陰で、友達が大量に出来ました。とっても楽しかったです！

しかしながら、皆様と一緒に出来たことが何ととっても一番たのしいことでした。お別れして寂しく思います。初日の朝食の席で、パンケーキ用に溶かしたバターを、(飲み物と間違えて)飲もうとなさったのを覚えていらっしゃいますか？！フー、危ない所でしたね。全くもって、一日の始まりを台無しにする所でした！私達は、お互いの言葉を喋ることはできませんが、温かい心の交流はできたと思います。そして深い結びつきもできました。今マリアンヌと私は、小さな白い雪の結晶を見えています。そして、美しく飾られた扇に目をやり、壁に飾った見事な刺繍に視線を向けています。イヤリングは、クリップを付けるためにお店に出しています！皆様とご一緒出来たことを本当に感謝します。またお会いできるといいですね！

浜菜みやこさんから届いたメッセージによると、彼女のラジオ番組の中で、私達のことを取り上げて下さったそうです。この度のポーランド訪問の写真が出来上がってくるのを待っているところです。私達の写真家の人は、実に美しい写真を撮る人です。ビルケナウ収容所の記念碑の前での集合写真に参加できなくてごめんなさい。しかし、写真屋さんはどんな奇跡でも起こしてしまいますよ！写真が出来上がってきたら、こちらからも送らせていただくつもりです。

皆様とご一緒出来たことに、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、この1週間が、皆様にとりまして素敵で実り多い1週間になりますように祈念しています。また、このメールを含め、何件も何件も辛抱強く翻訳して下さいの中村新一郎さんにも感謝です。浜菜みやこさんが、5年ぶりの再会の晩餐会の席で、ライトが当たって見えないにもかかわらず、プロジェクトの企画書を日本語で読み上げて下さったのはとても良かったです。

本当に忘れることのできないほど、特別で心温まる旅でした！皆様に心から感謝しています！

感謝を込めて

マリアンヌ・クレイジュベグト & イングリッド・ロレマ

.....

<原文>

Dear All,

Off course we do hope that you had all a very nice trip back to Japan. We have experienced the trip as very valuable. For me it was 30 years ago that I visited Poland. At that time Poland was behind the 'Iron Curtain' and so poor and so afraid of everything. A miracle has taken place. In 30 years you see no difference between Western Europe and Poland.

The visit to the extermination camp was utmost shocking. Shocking in two ways. One because it is so nearby in history and we learned so much about it from our families and schools and on the other hand it is because this has done by humans. The species we belong to! It is shocking to see where a wrong system can lead you!

It was also confronting to realize that the tension between Japan and its neighbors is still so vulnerable and delicate. This has in a way in my opinion also to do with systems.

The opera was shocking in a different way, with a blink in the eye!. To have a performance in a church is unthinkable in the tradition of the Dutch, but the voices were unbelievable. We are not Catholic but we were surprised. I show photo's here in Holland to friends and family and they cannot believe that an opera is performed in a church that is functioning as a church! (house of God) This has to do with the fact that we are decedents form the Calvinist tradition and not Catholic.

We stayed one more day extra in Krakow and it was amazing. It is a beautiful city with an amazing history. I show you some photo's. It is an Venice without water. We also paid a visit to the cathedral in the salt mine! My sunglasses were extremely successful. People like to borrow the glasses to make a selfie and people wanted to buy them. We made friends very easy with this glasses it was big fun!

Above all we enjoyed your company so much and we miss you all. Do you remember you start drinking the pancake batter at the our first breakfast together?! Oef big danger at the beginning of the day! Although we cannot speak each other's language I believe we had warm communication and a deep and warm connection. Now we look to a little white snowflake, a beautifully decorated fan and silk embroidery on the wall. Earrings are in the shop to transfer them into clips! We like to thank you for your company and hope we meet again.

I saw in the message from Hamana Miyako that we were mentioned in het radio program. We will see photos of our visit in the future. Our photographer made beautiful pictures I saw. I regret that I could not, at that moment, stand with you in front of the monument in Birkenau but photo shop will do miracles! We will send some of ours later when we have all collected.

Thank you so much for your company and we wish you a nice and fruitful week. And we have to thank mister Shinichiro Nakamaru again for his beautiful translation and his patient to do this over and over again! It was so good that Hamana Miyako could read the letter in Japanese language of the project "blinded by the light" at the dinner table when we were reunited after five years!

It was a special and hart warming journey that we will never forget! Thanks to all of you!

Warm regards,

Marianne Klijwegt and Ingrid Rollema

【ポーランドー訪問 所感 金美正】 別途、金美正様の「ポーランド訪問報告書」より転載

今回のポーランド訪問は戦争の恐ろしさ、人間の限界、神様と悪魔になる分岐点はどこにあるか？

そして平和の大切さ、どうやって平和を守るかを真剣に考えさせられた時間となりました。

苦難を乗り越えて民主国家を成し遂げたポーランド国民にも敬意を表したいと思います。

ドイツの首相は毎年アウシュヴィッツの慰霊塔の前でひざまずいて容赦を願っている、ポーランドのガイドにーそのようなお詫びですでに容赦は出来ているつもりでしょうか？ーと聞いてみました。彼女の返事はドイツがひざまずいたのはユダヤ人に対する行為であり、ポーランド人にたいするものではない、なのでまだポーランドではその部分が議論されているとのこと。

やはり国家元首の毎年のお詫びと献花があるとは言え、すべての犠牲者と犠牲者の家族はそう簡単に傷跡が治らないだろうとおもいました。

一方、訪問期間中の体験から、オペラを通じて伝わる対立から共生へのメッセージ、そして近日には小松社長に子供大学の提案をしてくる方がおり、それが小松社長が前から呼びかける国民国連の設立の入口になる可能性がある、そして、実現した場合ロレマさんが快くそのメンバーに入る約束をしたことが今回の訪問の成果でもあると思います。

この度は小松社長に声かけていただき、上記のたくさんの経験をさせていただけたことに真に感謝致します。添乗員として付き合いさせて頂いただけではなく一緒にメンバーとして付き合いいただいたメンバー全員の方たちにも感謝を申し上げます。私の気配り不足でご不便な事・不愉快な思いをすることもあったと思いますが、いつも優しく対応いただき感謝いたします。どうもありがとうございました。

【ポーランドー訪問 所感 浜菜みやこ】

この度は、ポーランド出張へ同行させて頂き、ありがとうございます。

この様な機会を作ってくださった小松社長はじめ、社員の皆様のご理解とご協力に、この場をかりて感謝申し上げます。ポーランドとの国交樹立 100 周年という記念すべき年にポーランドを訪問することができたのは、とても意義深いことと感じました。

また今回の旅は韓国の元小松コリアの創業時とヨーロッパでの活動に重要な役割を果たされた金美正さんがコーディネートしてくださいました。限られた日程でしたが、金さんのお陰で充実した旅となりました。成田から直行便でポーランドの首都ワルシャワに降り立ちました。

ワルシャワは芸術と緑に溢れていてとても素敵な街でした。ソ連邦崩壊後の 1989 年、現在の共和国となったポーランド。それは激動の歴史で、社会主義国家の遺産ともいわれる「スターリンの贈りもの」と呼ばれている文化科学宮殿は正に権力の象徴ともいえる壮大な建物でした。それだけに展望台からの眺望は、圧巻。ワルシャワの街を 360 度見渡すことができました。

またクラシック音楽が好きな人にとってはショパンを輩出した国。

サロンコンサートでショパンのピアノ曲を聴く機会に恵まれました。芸術を愛する国ポーランドで聴くショパンの調べはなんとも贅沢な心地よい、ひと時となりました。

しかしながら、ポーランドの歴史を知るにつれ平和の尊さと共に、人間は誰でも状況の変化により悪魔になる存在であることを、改めて実感する旅でもありました。

その象徴、負の遺産といわれるアウシュヴィッツ見学は私に大きな衝撃を与えました。

廃線になった引き込み線。一台だけある貨車。破壊されたガス室。無邪気に咲く小さな花。どれもそこに存在しているだけで、もの凄いパワーでこちらに訴えかけてきます。今回ご一緒させて頂いたズットナー像の彫刻家ロレマさん。

アウシュヴィッツの引き込み線の近くにポツンと残された貨車の前で「自分の父は連行されたけど、命がけで貨物列車から飛び降りて生き延びられた」という話をしてくださいました。

今回初めてアウシュヴィッツを訪れたというロレマさん。どんな気持ちでその場に立っていたのか。ロレマさんの頬を伝った大粒の涙を、私は忘れることはできません。

アウシュヴィッツ強制収容所は 1940 年ヒトラーのナチスドイツによって作られた、人類にとって、最も、暴力的抑圧、虐殺、ホロコーストの象徴といわれる場所です。

この収容所の中でおおよそ 110 万人のユダヤ人とポーランド人 15 万人、ジプシー 2 万 3 千人、ソビエト軍捕虜 1 万 5 千人が犠牲になったそうです。あまりにも多くの人が送り込まれ、ナチス親衛隊では管理しきれないので、収容された人を仕分けし、管理ピラミッドを構成。位をつけて管理させるようにしていたと、日本人ガイドのアヤカさんが説明してくれました。

自分の命を守るために、管理する側に立つ人はどんな気持ちだったのか。

小松社長がおっしゃる「人類は限りなく悪魔にも天使にも近くことができる」アウシュヴィッツはそれを気づかせて頂ける貴重な場所でした。最初は自分と違う他者を嫌だな、気に入らないな、と思う。そしてそれが少しづつエスカレートして、自分の常識とは違う人を認めない、罵倒する、かかわりを持たず無視する、そして排除する。正義という口実をつくり、集団を形成し、それが戦争を引き起こし気が付いた時には自分も戦争の当事者となっている。ささいと思っているイジメや、それを見て見ぬふりをするのが、戦争への入り口に繋がっていることに多くの人は気づかない。悪魔の入り口は常に自分の内にあり、誰もがそれを内包していることを認め合うことが、平和への第一歩だと感じました。

物事には必ずその状況が生まれる背景、プロセスがある。歴史に盲目的な人は現在にも盲目。と小松社長はよくおっしゃいます。なぜドイツが民主的な選挙でナチス党・総統ヒトラーをうみだしたか。

第 1 次世界大戦でたくさんの賠償金を支払うことになったドイツ。その状況を生み出した国々があつて、そして、ドイツと同盟を組んだ国々があつて。日本はどこに位置していたのか。

アウシュヴィッツは開館以来、全世界から 3000 万人近くの人々がおとずれているそうです。

私たちが訪れた日も多くの人が足を運んでいるのが印象に残りました。ヨーロッパでは、アウシュヴィッツを自分のことと捉えていると感じました。

「アウシュヴィッツの問題の本質について日本人は分かっていない」というような趣旨のお話をロレマさんがされていたと聞きました。アウシュヴィッツのことを、自分のことと捉えている日本人は何人いらっしゃるのでしょうか。自分の歴史に対しての認識の甘さに気づかされた瞬間でもありました。

ロレマさんの平和に対する想いが深く刻まれたズットナー像を、オランダ、ウィーン、韓国の板門店、広島、長崎、世界 5 箇所同時建立し、ズットナー像を通じて世界平和への想いを届けたいという小松社長の構想の実現にむけて、私も全力で取り組みたいと改めて強く念いました。

今回ポーランドを訪れた大きな目的の一つが、ポーランドと日本の国交樹立 100 周年を記念しての東京オペラ協会のオペラ「忘れられた少年」の鑑賞でした。

このオペラ公演が行われたのが、ショパンの心臓が埋葬されているという聖十字架教会。

大変厳かな雰囲気の中、素晴らしいオペラを堪能させて頂きました。総監督の石多エドワードさんは、フィリピンの方と日本人のハーフでいらっしゃる、オペラで世界に平和を届けたいとの想いで活動されています。常々、小松社長から「フィリピンは、日本人が忘れてはならない戦後復興の祖にあたる国」と伺っています。

またクラクフで行われたオペラ公演を記念したレセプションでは、日本と特別な関係にあるロレマさん、金さん、エドワードさんと、ポーランドの方々などが一堂に会す重要な場で、小松社長の構想の発表と共に、ズットナー像の紹介や、佐藤京子さんが日本舞踊を披露され、平和に対する念いや、日本の文化をポーランドの方々にもお伝えする素晴らしい機会になったと感じました。

今回、ポーランドを訪れ、その歴史に触れることができたのは、とても貴重な体験となりました。

またアウシュビッツのことなどをラジオを通じて、国内外の多くの方々に伝えることができたのも、人間自然科学研究所の活動の一環として大きな意義があったと感じております。

このような内容の濃いポーランドの旅をさせて頂きありがとうございました。

【ポーランドー訪問 所感 佐藤京子】

はじめに この度は、小松社長歴訪ポーランドは、小松電機産業創立以来、持続可能環境産業、八雲水神とHAPPYゲイト門番、人間自然科学研究所のたゆまない経営理念を実戦経緯の軌跡による賜物でしょう。心から敬意と共感の真を小松社長、社員の皆様に捧げたいと存じます。

ヨーロッパ等、夢にも思いませんでした海外に随行させていただく機会をいただきましたことは、光栄なことに感謝のほかはありません。 本当にありがとうございました。

所感 一週間海外に、成田空港の広さ、機内食2食、11時間飛行中の安定感等、まさに初体験記ばかりで溢れる感動の道中記ですが、言葉に尽くせません。

ポーランド、ワルシャワの王宮時代は旧地域を新世紀道路で繋がり異質の歴史を辿ったポーランド国の誇りを誇示してるかのように感じました。美しく凛と佇む建造物、芸術に融合している奥深い森の公園、激しく国境を脅かした過去に学ぶポーランド国に想いを馳せ温故知新でした。

ポーランド4日目、朝4時出発5時間移動クラクフ、アウシュビッツに9時到着、息を呑み冷たい風が一層身体中を緊張させた。金美正さんが日本人ガイドさんを案内人にご紹介下さりととてもわかりやすく説明いただきましたことは感謝です。和服で収容所を2時間余り、各国様々な異国民と行き交いながら歩いた。

石ころが草履を阻むがそこには神経がいかない、視覚、聴覚が恐怖感で他のことは脳に届かなかった。

【着物で大変でしたでしょう】とお声いただきました。お氣にかけていただきました。が経験したことの無い和服の力をいただきました。ガス室に行く最後の三段ベットの案内されて、薄暗い中に入り、思わずベットの手すりに触れた時、何故か着物の力を感じたのです。

人間の尊厳とは、衣に始まり食住に安全を欲求した人類。佐野様の素晴らしい時間を惜しまずのご報告にそして皆様のご報告に甘え、この度のポーランドは多くの気づきを共有していると存じますので記さないことをお許しください。

最後にロレマ様、マリアンヌ様、金様に再会の感激と小松社長に機会を賜りましたお礼を心より申し上げます。

【ポーランドー訪問 所感 杉本 真知子】

この度は、ワルシャワ・アウシュビッツの旅に同行させていただき有難うございました。

わたしは、欧州は初めてで、期待と不安でいっぱいでしたが、ワルシャワでの感動とアウシュビッツでの怒りと深い悲しみを心に刻むことができました。詳細の報告書は、すでに佐野さん・金さんが書いてくださいましたので、私の稚拙な報告は遠慮させていただきます。

今まで「対立の文化から共生の文化へ」の意味が理解不可能の部分がありました。

しかし、今回ポーランドに於いての様々な文化交流が以前から社長が布石しておられた点とつながり、今後、面となっていく確信を得ました。

1920年後半からファシズム・独裁者の台頭があり、そのなかで、抵抗する動きが芸術の分野で見られ始めました。チャップリンの映画「独裁者」は、人種・民族を超えて理解しあう事、民主主義を守っていくことの大切さを訴えました。

ピカソは絵画「ゲルニカ」で、ナチ党率いるドイツ軍によって爆撃を受けたことに対する怒りや悲しみ、戦争の悲惨さを訴えました。抑圧された民衆の叫びを感じます。

ポーランドでは、東京オペラ協会の世界平和を願う公演を素晴らしい教会で見ることができました。そして、佐藤さんは神話を基にして創作された日舞を披露されました。

ことばを超えた交流ができたと確信しています。

人間自然科学研究所の活動は、キルト・オペラ・日本舞踊・着物・茶道等々展開されてきました。私が学ぶ茶道裏千家は「一盃からピースフルネスを」「一盃で感謝・合掌・仕え合い」をテーマとしています。

兎角、ひとは具合の悪いときには、「今を見ていない」か「見るのをやめている」。「見ようとしていない」「見たくないから見ないでいる」時です。

今の自分を自戒しながらの所感と致します。 杉本 真知子

【ポーランドー訪問 所感 細木 由里子】

この度は、ポーランドへ出張・同行させていただく機会をいただき、誠にありがとうございました。

小松社長はじめ、毎日の業務に携わっていらっしゃる社員の皆様に感謝いたします。

今回の出張で、まず印象に残ったことは、現在も6カ国と国境を接し、他国から何度も侵略され、分割され、1795年以後123年に渡り地図上から国名が消えたにもかかわらず、市民が蜂起し、また負けてという事を繰り返しながら、粘り強く国家再建の道を探り続けてきたポーランドという国に身を置いたことで、戦争が日常であること、分割されるということをリアルな肌感覚で感じる事ができた事です。ヤルタ会談で日本が4つの国に分割統治される事が決まっていたことを考えると、今、いつ日本が分割される事になっても決しておかしくはない状況であることを、痛切に感じました。日本は島国で、国境を接している国がないこと、歴史を学ぼうとしない態度が、ゆでガエルのように、ぬるま湯につかっているが何もしないでいるといつしか熱湯になりゆであがってしまうまで気付かないという事になることを実感しました。社長がよく言われるカントの「自然状態とはむしろ戦争状態である」という言葉を実感を伴い感じられ、だからこそ、平和というのは、その宿命を受けとめて、創り続けるもの

であることを心に刻みました。佐野さんのレポートにもある通り、ワルシャワには美しい公園がいくつもあり、綺麗に整備され、彫刻が置かれています。侵略され分割されながらポーランド民族としての誇りと自覚を持ち続ける為の支えとなったのが、芸術や文化であったのだと感じます。音楽家のショパンは、ポーランド人の宝です。それはガイドさんの言葉からも、行かせていただいたショパンのピアノコンサートに来場された方々からも、ワルシャワに残るショパンゆかりの建物が多いことなどからも感じられました。国内には大勢のファンがいて、毎日どこかで、ショパンのピアノを聴くコンサートが行われていると言います。ショパンはポーランドが地図上から消えている 1810 年の生まれで、ワルシャワ音楽学院を卒業の後にウィーンに旅行に出かけている間に国内に蜂起が勃発し、結局帰国叶わずパリに住み続ける事になり 39 歳で亡くなりました。オペラを観劇した聖十字架協会の柱にショパンの心臓が埋め込まれているとの事ですが、そのくらい、母国に対しての愛情を持ち続けたという事も、現代に生きるポーランド人を惹きつけているのだと感じました。

ワルシャワの町中の至るところに、戦争の歴史を伝える写真付きのボード、銅像がありました。日常の中に、戦争が今もあるのです。戦争は過去ではなく、今起きていること、また起こっても不思議ではないことが、日常の状態であることを毎日感じました。

次にはやはりアウシュビッツです。第二収容所を「死の門」と名付けられる入口を入り、見学しました。有名な列車の線路があるところです。アウシュビッツ強制収容所というとユダヤ人だけを思い浮かべていましたが、ガイドの綾香さんの説明によると、1940 年から 1942 年までは主にポーランド人（ポーランド再興に有益な人）を収容していたのとことで、ユダヤ人は 1943 年 3 月以降に女性と子ども中心（男性は既に労働に徴収されている）で、20 カ国以上から、一番遠くは 2400 km 離れたところからアウシュビッツに収容されてきたという事でした。そしてまず、佐野さんのレポートの写真にもある場所で、選別されるのです。ここまでの劣悪な環境での長旅で既に弱っている人も多く、そういう人や子どもは、すぐに「選別」されてガス室送り、他は労働、人体実験などの経緯をたどり、130 万人の内ユダヤ人 110 万人が亡くなり、内 90% がガス室でなくなっていると説明を受けました。ガス室送りを待機する収容施設があり、置いてあるだけで使用されないストーブ、3 段になっているベッド様式になっているものがありました。これは一段に一人ではなく、ぎゅうぎゅう詰めに入り、寒く灯りも取れないところでガス室送りを待っている建物に身を置きました。

「人は限りなく天使にも近づけば、悪魔にも近づく。人類は通常の状態が戦争状態である。このことを前提に物事を組み立てなければ、根底から崩れる。つまりその入口は、天国の入口か地獄の入口、ほどの差である」と社長から教わりました。午前中の早い時間にアウシュビッツに到着し、見学を始めた時には、そう大勢の人たちはいませんでした。1 時間、2 時間を過ぎると、どんどん見学者が増えてきて、フランスからの見学グループに行き会い、また国はわかりませんが、たくさんのお見学者グループが訪れてきたことに驚きました。それも、子ども達が先生に引率されたグループではなく、若い人が多くはありましたが、年齢も様々、大人のグループです。アウシュビッツは、現在もありのままの姿で（ガス室爆破して証拠隠滅した姿もありのまま）、今を生きる我々に、これを活かして、どう自分の役割を果たしていくべきかを問いかけ続けている。才能の開花を妨げるのがパワーハラスメント。アウシュビッツは才能の開花を促す装置であるとも教わりました。日本はそれをやっていない。隣国が記念館を作っている。では、その日本がやっていないという事、隣国が作っているということを世界人類の為に活かしていく。日本は人類の戦争を終わらせる使命を持った国であるという事を言われますが、「な

い」ことを活かしていける、その布石が打ってあるという事は、本当に希有なことであり、ありがたいという言葉につきると感じました。人類の戦争を終わらせる使命をもった国の国民であると自覚し、その中で自分の役割を認識し行動することから、相手の尊厳欲求が満たされ、結果、自分の尊厳欲求を満たし、健康寿命を賜ることになると、いつも社長から教わっていることが、このアウシュビッツに身を置かせていただき、ロレマさん（事情の詳細は不明だが、強制収容所に移送される貨車から飛び降りて辛くも助かったとされるお父様から、学生であったロレマさんに「これから学校でドイツの悪口を語る人がいるかもしれないが、その時には、帰ってきなさい。一度しかない人生。人を恨んで生きるのは無意味である」と教育を受けられたそうです）を目の前にしながら、自然に府に落ちるのを感じました。すべては《当事者意識》であると。ロレマさんは、強制収容所の中に入られてからは、決して一緒に写真を撮られませんでした。また、どの場面だったかは忘れましたが「日本人はわかっていない。またわかっていない」と、小さい声でしたがはっきりとおっしゃいました。後で社長から、日本とドイツは同盟関係にありましたから、この収容所も決して“ナチス”だけでなく、日本はその“助手席”に乗っていたことになる、と教わりました。全てはこの当事者意識から始まるのだと感じました。

『楽しく持続的に生きられる世界をつくる 私がつくる』時間と空間の“間”を活かせる時が、今、来ていると強く感じさせていただいた、アウシュビッツの見学でした。

最後に、今回の出張のもう一つの重要なテーマは「対立の文明から共生の文化へ」構想をポーランドから発表（日本・ポーランド国交100周年記念 オペラのレセプションで）するという事でした。アウシュビッツの見学の後、一行はレセプション会場に向かいました。詳細は佐野さんの報告の通りです。この構想をなぜポーランドで発表するのかを、行きの飛行機内で社長にお聴きしました。

それは、そうすることがポーランドの面子を立てることになるから。なぜポーランドでの発表が、面子を立てることになるのか、と更に問いましたら、人類史に残る構想をポーランドから発表したという事実は、映像と写真に永遠に残る（残す）訳で、これは凄まじい苦難を伴い、一時は120年以上にわたって地図上から国が消えたという歴史を持つポーランドの方々にとっての永遠の誇りとなるはずであると。それを聴いて、なるほど、人間の“尊厳の欲求”が満たされるということは、全ては“存在”であり、自分の“存在”が相手にとって、必要不可欠でありつづけ、また自分にとっても同様に相手の“存在”が必要不可欠で在り続けるという関係性において成り立つものであり、そこにホスピタリティの重要性があるということかと理解しました。そして、レセプションでは、社長が乾杯の挨拶をされましたが、周囲に「挨拶を短くして下さい」というゼスチャーをされながらも、ステージのバックにズットナー像を据え、韓国代表 金さん、日本代表 佐藤京子さん（和服）、そしてロレマさんと壇上に並ばれて、構想を発表されました。この映像は永遠に、世界人類の新たな一步を刻む記録として残されるのだと思うと、同じ場に身を置かせていただいた感謝の思いとこれから果たすべき責任の思いで、身が引き締まる感じがしました。

まだまだ、オペラのこと、ワルシャワ市内観光で見たこと教わったことなどありますが、佐野さん、金さんの報告書に詳細をお書きいただいていますので、簡単ではありますが、印象深く心に刻んだことと社長に教わったことでご報告とさせていただきます。

改めまして、このような気づきを得られる機会、ポーランドへ行かせていただき、本当にありがとうございました。未熟ではございますが、今後、この学びをきっかけに、皆様と共に一緒になって、やるべき役割を果たして参ります。宜しく願いいたします。

【ポーランドー訪問 所感 佐野 馨】

このたびは、小松社長はじめ小松電機産業の皆様のおかげをいただきまして、9月15日子ども大学構想の講演会・会談後に成田移動、16日出国、9月21日成田帰国、羽田で子ども大学構想会議のスケジュールなどで小松社長に随行させていただきまして、ポーランドのワルシャワ、クラクフへ出かけさせていただきました。小松社長が支援されておられます、日本ーポーランド国交樹立100周年記念 オペラ「忘れられた少年ー天正遣欧少年使節」ポーランド巡演のタイミングに併せて現地にでかけさせていただいたものです。ヨーロッパに出かけるのは初体験で地政学的にも重要なところへの視察訪問に同行させていただきました大変にありがとうございました。出発にあたっては、スケジュール手配、光の柱プロジェクトのチラシ資料の作成、一眼レフカメラ、動画撮影用ビデオカメラ、日本舞踊演奏用のスピーカーの手配など沢山の方にお世話になりました。感謝申し上げます。

今回の視察訪問は 平和を願う オペラ 忘れられた少年の観劇と、第二次世界大戦でドイツ、ソ連に侵攻されて壊滅したワルシャワ市内が世界遺産になるまでに復興されている現地状況の確認、大戦後にソ連共産党政権が建設したスターリンの贈りもののタワーを見学、ドイツナチスの人類の怨念の足跡アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所(第2収容所) 見学、そして クラクフのオペラ巡演歓迎レセプション参加。歓迎レセプションでは、小松社長が乾杯の挨拶をされまして、日本・出雲から陽が昇る「光の柱プロジェクト」構想についてお話をされました。小松社長に随行されていたご一行の中から、西洋を代表してズットナー像制作者の彫刻家イングリッド・ロレマ様、韓国を代表して元小松コリアの金美正様、日本を代表して人間自然科学研究所の佐藤京子様を、一緒に壇上にお呼びされまして、御挨拶のあと乾杯の音頭をとられました。今回のポーランド視察に参加させていただきました随行者一同、小松社長の乾杯のご挨拶をお受けして、心新たに今回の視察の意義を胸に刻んだ次第です。

今回の訪問で、初めてロレマさんにお会いさせていただく機会をいただきまして、ロレマさんの感性豊かな優しさと何にでも素直に表現される振る舞いに触れられ大変にありがとうございました。クラクフのホテルで出発するときに、ズットナー像の収納箱をテープで止めたいときにもすぐにフロントへテープを借りに行かれて、自ら収納箱をテープでぐるぐる巻き、テープが手で切れなくてハサミが必要なところ、ロレマさんは さっと自分の歯で切断されました。行動力の早さにご親切に感謝の一念です。ロレマさんからお送りされた訪問後のご挨拶のメッセージには 非常に衝撃を受けております。小松社長からお話をお伺いしていましたが文面を読ませていただきひしひしと感じます。ロレマさんの文面では、オペラはぱちくり目状態でしたよ、オランダの伝統からすれば、教会でオペラをなんて考えられません。と心情を述べておられます。

日本の神式宗教「大本」(おおもと)では「宗教は芸術の母」「万教同根」の理念のもと、現地の要請を受けて昭和55年に、アメリカ ニューヨークの聖ヨハネ大聖堂と、イギリス ケント州の英国国教の総本山カンタベリー大聖堂で、大本の神式祭典と、能“羽衣”が奉納されたことがありまして、教会の中で日本の文化の一端を担うオペラが奉演されることにはあまり違和感をもっていませんでしたので驚きました。因みに、大本は「一つの世界」実現のために、大正12年(1923)頃よりポーランド発祥の国際語「エスペラント」の普及推進に務めておりポーランドとも繋がりがある状況です。

ポーランドの方は親日的であると言われる要因の中に、かつて第一次大戦の混乱期にシベリアにいたポーランド人の孤児765人を日本が救ってあげたそうです。また、ユダヤ人救済でビザ発給をされた杉

原千畝さんの英断と行動も賞賛されています。ポーランドの人は日本を桜の咲く国と呼んでおられるそうです。また救済された孤児の方は ポーランドに帰ってから「桜の咲く国」を想い出すときには「君が代」と「うさぎとかめ」を合唱、特に大きくなってからの会合で皆んなに会われた時には、皆さんで「もしもし亀よ・・・」を合唱されていたそうです。

今回のポーランド訪問視察にあたって、小松社長から事前にいろいろとアドバイスをいただきましてありがとうございました。そして、手につくところの書籍やネット記事などもみさせていただきました。これらについて報告書に添付したいと思います。アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所の書籍につきましては あまりにも生々しくてスキヤナをすることに 戸惑いを憶えましたが 鎮魂 向き合うことが大事といわれる小松社長のお言葉に 勇気を出して資料整理してみました。現地の状況は 静寂ですが当時の姿が そのまま残されており 説明を聞き 回りを見るほどに 心が沈む感じでした。心から哀悼の意をというほどに 生やさしいモノではなかったようで 本当に辛い感じでした。この本の著者 中谷剛様が 現地ガイドされている様子は YouTube に載せられていますのでこれも参考になるかと思います。例えば、

<https://www.youtube.com/watch?v=NMNYzsvEiuM&t=3s>

<https://www.youtube.com/watch?v=UFuBXie28aE&t=123s>

その他、稲若和昭様、小林泰久様から紹介を受けましたコメントを転載します。

ポーランドは親日国と言われておりますが、その背景と現状を知るのに参考となる映像が Youtube にありましたのでご案内させていただきます。

1. 【親日国ポーランド ep0】日本陸軍、赤十字によるポーランド孤児救出

<https://www.youtube.com/watch?v=gVEvh9xHA6s> (4分)

2. ポーランド孤児と日本のお話【感動の実話】HD - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=4ZI6EwX5c80> (10分)

以下バラエティ番組で「所さんの笑ってこらえて」で放送された全世界日本語学校の旅でポーランドが紹介された映像です。

3. ポーランド ワルシャワ大学 日本学科 (前半) (6分)

<https://www.youtube.com/watch?v=27ccertyKh2Q>

4. ポーランド ワルシャワ大学 日本学科 (後半) (7分)

<https://www.youtube.com/watch?v=SMfN5zHLWOo>

ポーランドは遠い国。今まではあまり意識をしていませんでしたが、これほどまでに歴史に翻弄された国があったのかと改めて思い知らされ、また現地に出かけさせていただきまして、壊滅された都市の零から無限への立て直し、ワルシャワ市民の再生魂の実践に驚嘆しています。素晴らしい歴史の経過を学ばせていただきまして感謝いたします。

小松社長はじめ、同行いただきました皆様にはいろいろとお気遣いを賜わり無事に日本に帰国させていただきましてことを感謝いたします。ありがとうございました。

撮影した写真や動画は、小林泰久様、岸本典久様などにより見事に編集していただき、人間自然研究所のホームページにアップしていただきました。感謝いたします。

2019年9月26日

オペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」ポーランド巡演



9月15日から22日にかけて石多エドワード氏が代表を務める東京オペラ協会によるオペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」が、ポーランドと日本の国交樹立100周年記念事業としてポーランドで巡演され、オペラの最後に日本・出雲から陽が昇る「光の柱プロジェクト」構想を発表致しました。

2008年に発表した国民国連構想が、このポーランド訪問のご縁をきっかけに進化し、長い対立の文明から共生の文化を生み出すスタートになると確信しています。

今回のポーランド訪問では、ベルタ・フォン・ズットナー像作者のイングリッド・ロレマ氏も合流し、オペラ観劇の他にアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所やワルシャワ蜂起記念碑など歴史的な記念館へも訪問させていただきました。

写真と動画をまとめ研究所ホームページに掲載されています。

◆ダイジェスト映像（11分）

<https://youtu.be/7UT8gMNk0Vg>

◆写真集（5.5MB）

<https://www.hns.gr.jp/download/20190916polandphotobook.pdf>

◆研究所ホームページ

<https://www.hns.gr.jp/>

ポーランド訪問を終えて

2019.09.24

金美正

はじめに

この度は、日本とポーランドの国交樹立100周年を記念するオペラ（忘れられた少年－天正遣欧少年使節）がポーランドの4都市で巡演され、人間自然科学研究所がこのオペラを応援し、ポーランドの凄まじい歴史の現場－アウシュヴィッツ見学を中心とするツアーに添乗員としていかせていただく貴重なチャンスをもらいました。訪問中に感じさせてもらった感想を簡単ながらまとめてご報告致します。

1. ポーランドのあらましについて

成田から11時間15分を飛行して着いたポーランド、首都ワルシャワも、ワルシャワに首都を移す前の600年間の都の地であったクラクフも、どの道を歩いても絵葉書に描かれたような美しい路地や町並み、すばらしいユーロピアン建築物が多く、各広場や主な建物の前に立たれている彫刻はロマンチックな雰囲気を演出していました。

かつてポーランドは東欧のなかでもっとも激しい歴史を持ち、波乱万丈の苦労があいつぎ、周辺の強大国家によって分割されてしまい、国の存在すらなくなる時期があり、世界地図上ポーランドという国家名が消え去ってしまったこともある国である。ポーランドは、中国・ロシア・日本の間に挟まれ数え切れない戦争と苦難を経験した韓国の歴史と比べるととっても似ている国柄でもあります。第2次世界大戦以降は市民蜂起による政権の変化もあり、分断されている北朝鮮の核挑発を目の前にしている韓国から参加した自分にとってはある種の同病相隣の視線でポーランドを眺めざるを得ませんでした。



（成田→ポーランド飛行時間：11時間）

一方、そんな悲惨な歴史のある中、天動説を引っくり返したコペルニクス・ラジウムを発見したキュリー夫人・39歳で夭折した世界的な音楽家 ショパンなど、傑出した人物を沢山生み出した国でもあり、彼らは世界からポーランドを見に行く立派なコンテンツとなって今のポーランドの大きな資産となっていることが分かりました。



（ワルシャワの旧市街地）

また、近代においては、共産国家から民主国家へと移る大きな変化があり、教育を受ける中で共産国家から民主国家に変わったというポーランドの日本語ガイド（アレキサンドラーさん）は民主国家になれたことをとてもうれしく思っており、彼女の話しに夜と、混乱期（共産国家に戻ろうとする動き）はわずか20年でなくなったという。民主国家に変わりだれでも頑張れば願うものがかなえる時代になっているとのことでした。それは民主化以降の選挙で共産主義を従う政党が投票で議席を失っていくなどポーランドの国家

システムでもってより早く落ち着くことが出来たことである。地球上5カ国しか残っていない共産国家と対峙している韓国から見ると複雑な心境にもなってきました。

2. 大虐殺の現場—アウシュヴィッツ



(死の門から選別場とガス室うつなぐ線路)

第2次世界大戦当時のドイツ・ナチによる人権抹殺の現場であり、旧首都クラクフから一時間半を走るポーランド南部オシフィエンチムに位置しています。アウシュヴィッツとはこの地名のドイツ式呼び方である。戦争に狂った一人の指導者の行為によって残酷に犠牲された30カ国からの400

万人の怨念の場所であるわけです。1979年、2度とそのような過ちが起こらないように世界遺産に登録されている。そこではユダヤ人とナチに反対した政治家・知識人・芸術家・その人達の子供に至るまで数百万の人が何の抵抗も出来ないまま酷い形で殺されていた。『死の門』と名づけられた強制収容所の入口を通り、囚人を乗せて走った線路と貨物車、ガス室に直行の人と労働場につれて行かれる人を選別した地点に立ち、そこで別れさせられた親子と家族の衝撃を思うと胸に詰まるものがあり、当時のことを説明するガイドの話のろくに聞くことが出来ませんでした。

天気もその気持ちと同様で雨雲が低く下がり、私たちの気持ちをいっそう暗いものにさせました。そして、ガス室の跡、一日に処理出来ないほどガス室が溢れてガス室に入れられるまで待たされた悲惨な宿所、死骸の焼却場など、人間をより効率的に殺すこと、殺すだけに夢中になっていた人間は、

いったい何をもってそこまで悪魔になれたか
とつくづくおも
うようになります。
劣等民族を
掃除するという
途轍もない傲慢
が呼んだ惨事
としてはその犠

牲があまりにも大きすぎる。



選別場の様子を説明するガイドさん



(焼却場の跡)



慰霊塔前で黙祷される小松社長

3. オペラ（忘れられた少年）



天正時代を背景に九州のキリスタン大名の名代として命をかけてバチカンに向かった4人の少年のストーリーをオペラに制作し、4つの都市で5回に渡り巡演しましたが、私たちはショパンの心臓が安置された聖十字架教会にて公演を見ました。教会の祭壇を舞台に最高のバックグラウンドで公演が開かれ、出演者の声が良く響き渡り聞きやすい環境でした。しかし、祭壇の前に設置したベンチに飛び上がったる光景はおかしい時もあったのが事実です。

在ポーランド大使館の人も参観に来ているし、日本ーポーランド文化交流センターのメンバーが私たちの世話もしてくれました。殆どの観客はミサを終えたポーランドの信者さんでありましたが、はるばる日本からの出演者に熱い拍手を送ってくれていました。32名の団員が9月12日からポーランドへ行き、教会の祭壇を舞台に、電子オルガン一台を持って公演をしているようであった。一見粗末に見えながらもなかなかあらわしたい内容が良く表現されている。



舞台の左側に日本から持って行った2体のズットナー像と『日本一の村づくり』と書かれたのぼりと小松社長の平和の柱プロジェクトの垂れ幕を飾り、日本からの応援団を趣旨を表しました。これまで数多い支援をなさってこられましたが、今回のスポンサーを契機に小松社長の長い念願の国民国連など、より分かりやすく理解してもらえるツールを見つめる発想に一歩進めたのではないかと思います

4. ロレマ様

今回の訪問には、オランダのロレマさんと彼女の親友であるマリアンヌさんを招待し、彼女二人は喜んでポーランドまで来てくれました。私にとっては5年ぶりの再会だったのでとてもうれしく思っています。

彼女は相変わらず『誤った判断の劇』のメンバーとして、またパレスチナ自治区ガザ地区の子供たちの支援活動に一所懸命であった。彼女が最近『誤った判断の劇』で使ったイナゴ像のミニチュア（最初のサンプルとして）を小松社長にプレゼント、それは、シャドウィング法で演出するために作ったものであり、同じも・の・が光の角度によってまったく別のも・の・に映るという表現のために作って加工したものを言う。



ロレマさんは旅行中に私たちメンバーに対し、ホテルの朝食の際にみんなのゴーヒーを持ってきてくれるなど、至るところで言葉の不自由の中でもコミュニケーションしようといつも笑顔でとても優しく配慮していただきました。彼女と一緒にいるとなんとなく自分も便乗して品が高くなるような気分になり、とても素敵な女性でした。小松社長のおかげでこんなすばらしい女性に会えたことに感謝でいっぱいです。

アウシュヴィッツで私たちメンバーが記念写真を要請した時、彼女は拒否しましたが、自分の感情がとてもそこで写真をとるようにはならなかったと言われました。家族の経験（何の理由か分からないが彼女のお父さんがアウシュヴィッツに連れて行かれる絶対絶命の際にトラックから飛び降りて惨事を逃れたこと）を考えるとやはり普通に観光する心境で歩けないはずと思います。

彼女の平和へ向けた活動に敬意を持ちます。

5. クラクフでのレセプション

9月19日、ポーランドでの最終日の昼はクラクフのオペラハウスでクラクフ州知事を交えたレセプションがありました。参加のメンバーは今回のオペラの出演者とポーランドでオペラを勉強する学生と先生などの関係者がいました。前日のオペラで私たち一行を見ていた出演者の方々から声をかけられ挨拶しましたが、メンバーの中で70歳を超えた女性がいて、しかも劇団に入



ってわずか2ヶ月しか経ってないと自己紹介されびっくりしました。あの年齢でも劇団に入られ、必死に歌を覚え、11時間も飛行機に乗ってきて舞台に立てたことで彼女は幸せに満ちていました。自分の存在が確認出来るって、あれだけ元気をもらえるものと感じました。

そこで小松社長の乾杯の音頭がありましたが、核でもって破壊される平和を対立から共生へ持って行くしかないと言われ、そのようなメッセージを伝えるにオペラはとてもよい芸術であると賛辞を伝えました。

女性全員せっかく民族衣装を持っていたもののアウシュヴィッツ見学の時間や移動所要時間のため着用は出来なく残念でした。しかし、佐藤京子さんの日本舞踊が披露でき、現場が盛り上がり、ご一行様みんな楽しい時間の共有が出来たと思います。



6. 所感

今回のポーランド訪問は戦争の恐ろしさ、人間の限界、神様と悪魔になる分岐点はどこにあるか？そして平和の大切さ、どうやって平和を守るかを真剣に考えさせられた時間となりました。

苦難を乗り越えて民主国家を成し遂げたポーランド国民にも敬意を表したいと思います。

ドイツの首相は毎年アウシュヴィッツの慰霊塔の前でひざまずいて容赦を願っている、ポーランドのガイドにーそのようなお詫びですでに容赦は出来ているつもりでしょうか？ーと聞いてみました。彼女の返事はドイツがひざまずいたのはユダヤ人に対する行為であり、ポーランド人にたいするものではない、なのでまだポーランドではその部分が議論されているとのこと。やはり国家元首の毎年のお詫びと献花があるとは言え、すべての犠牲者と犠牲者の家族はそう簡単に傷跡が治らないだろうとおもいました。

一方、訪問期間中の体験から、オペラを通じて伝わる対立から共生へのメッセージ、そして近日には小松社長に子供大学の提案をしてくる方がおり、それが小松社長が前から呼びかける国民国連の設立の入口になる可能性がある、そして、実現した場合ロレマさんが快くそのメンバーに入る約束をしたことが今回の訪問の成果でもあると思います。

この度は小松社長に声かけていただき、上記のたくさんの経験をさせていただけたことに真に感謝致します。添乗員として付き合いさせて頂いただけではなく一緒にメンバーとして付き合いいただいたメンバー全員の方たちにも感謝を申し上げます。私の気配り不足でご不便な事・不愉快な思いをすることもあったと思いますが、いつも優しく対応いただき感謝いたします。どうもありがとうございました。

以上、足りないながら私の報告書と致します。

付録写真



ショパンのdeath mask



ショパンピアノ曲 スモールコンサート



ワルシャワ駅前の中心地



ワゼンキ公園のポーランド王室の離宮



柳の木(ポーランドの木)の下に座ってるショパンの銅像



ショパンの心臓が安置された聖十字架教会



ワルシャワの旧市街地の王宮前広場